

伊東市新図書館基本構想

令和3年3月

伊東市教育委員会

目次

1	基本構想の位置付け	1
2	前提条件の整理	2
2-1	伊東市及び現図書館等の現状.....	2
2-2	図書館の設置及び運営上の望ましい基準及び同規模自治体等との比較	17
2-3	敷地条件について.....	19
3	課題	20
4	市民の意向の調査.....	24
4-1	市民ワークショップ	24
4-2	小学生ふるさと教室	27
5	コンセプト、機能・サービス、蔵書目標の検討	28
5-1	拡充が必要な機能・サービス内容の検討	28
5-2	伊東市新図書館コンセプト	42
5-3	蔵書目標の設定	43
6	施設面積の検証と機能配置案の検討.....	44
6-1	施設面積の検証	44
6-2	各フロアにおける機能配置案の検討.....	47
7	事業計画	54
7-1	施設整備費	54
7-2	概算運営費について	55
7-3	今後のスケジュール	55

1 基本構想の位置付け

本市では、伊東市立図書館の前身となる伊東町立図書館が開設された大正4年11月から現在に至るまで、市民の読書活動推進に向けて地域に根差した様々な事業に取り組んできました。現在の伊東市立図書館は、伊東市生涯学習センター中央会館と併設された伊東図書館を中心に、大原児童図書館、移動図書館等を通じて市全域に図書館サービスを提供しています。伊東図書館は昭和55年11月に開館し、築40年を迎える施設で、新たに移転を行う予定です。

現在の伊東図書館は、利用者が閲覧できる開架スペースが十分でないほか、休日等の中高生の学習スペース及び駐車場の不足など、敷地・建物条件により解消されない課題もあり、バリアフリーへの対応等も含めたハード面も含め、利用者ニーズに沿ったサービスへの対応等を検討していく必要があります。

このような状況下において、利用者に満足いただけるような、高度な図書館サービスを始め、ICTなどを活用した利便性の高い新たなサービスや情報発信機能を備えた新たな伊東図書館(以下、「新図書館」という。)の建設を進めるとともに、伊東市生涯学習センター中央会館の移転も見据えつつ、多様化及び高度化する利用者ニーズ等に対応すること、さらには、コミュニティ醸成の場となるスペースの設置などを実現する必要があることから、図書館機能と生涯学習センター機能を併せ持つ施設として伊東図書館及び伊東市生涯学習センター中央会館(以下、「現図書館等」という。)の移転を検討しています。

こうした背景の下、令和3年度以降に策定を予定している新図書館基本計画、建設後の図書館等運營業務及び施設管理運營業務に先立ち、新図書館におけるコンセプト、サービス内容、それに必要な諸室、ゾーニング等について検討するとともに、市民が「未来を拓く」ことのできる図書館像を描けるよう、将来的な運営までを見据えた有用性の高い構想として、実現可能かつ効率的な運営体制の検討なども包含した「伊東市新図書館基本構想」(以下、「本構想」という。)を策定します。

2 前提条件の整理

2-1 伊東市及び現図書館等の現状

2-1-1 伊東市の概要

(1) 地勢

本市は、静岡県用最東端、伊豆半島の東に位置し、東は相模灘に面し、北は熱海市、西は伊豆の国市及び伊豆市、南は賀茂郡東伊豆町に接しています。市域は、東西 10.45 km、南北 20.45 km と南北に長く、面積は 124.10 km²で、市域の 44.7%が国立公園区域に指定されています。

全国有数の湧出量をもつ温泉地であり、大室山、小室山公園、一碧湖、城ヶ崎海岸、さくらの里といった自然資源のほか、美術館などの文化資源、東海館、木下杢太郎記念館、伊東東郷記念館等の歴史文化資源等の地域資源に恵まれ、これまで観光を基幹産業として発展し独自の文化が築かれてきました。



図 2-1 伊東市役所から撮影した市街

(2) 人口

ア. 総人口の推移

本市の人口は昭和 55 年から平成 7 年までは増加傾向となっていたのに対し、平成 7 年以降は増減を繰り返し、平成 22 年以降は減少傾向が続いています。

平成 30 年 12 月末の住民基本台帳人口は 69,215 人で、平成 22 年度と比べ 6.3%減少、世帯数は平成 22 年度以降横ばいで、平成 22 年度比で 1.9%増となっています。

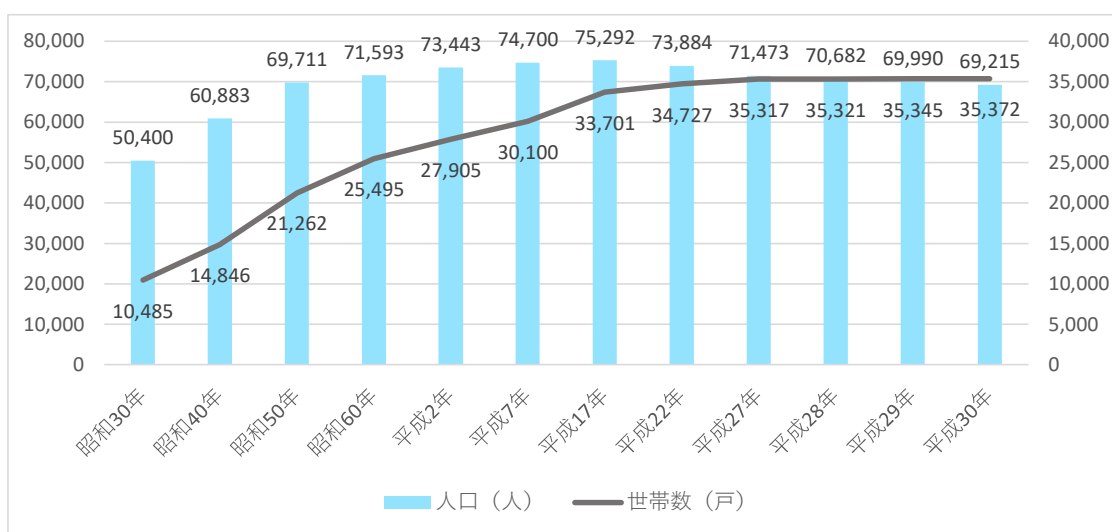


図 2-2 住民基本台帳人口の推移

今後も人口減少は続く予想され、「伊東市まち・ひと・しごと創生 人口ビジョン」において、将来展望人口は令和 42 年で 42,000 人と算出しています。

イ. 高齢化率

本市においても少子高齢化が進行しており、平成 27 年の国勢調査人口で算出した高齢化率は 39.7%で、全国平均の 26.7%を大きく上回っています。高齢化率は地域によって差が見られ、人口が少ない大字・町で高齢化率が高い傾向があります。

表 2-1 大字・町別の年代構成

大字・町名	人口総数		15歳未満 比率		15~64歳 比率		高齢化率 (65歳 以上)		平均 年齢	
	順位	順位	順位	順位	順位	順位	順位	順位	順位	
宝町	31	47	0.0%	47	36.7%	46	63.3%	1	63	2
赤沢	728	18	2.3%	46	34.8%	47	63.0%	2	64	1
松原湯端町	165	43	7.4%	30	37.8%	45	54.7%	3	61	3
新井1~2丁目	836	16	6.1%	40	42.4%	43	51.6%	4	60	6
東松原町	239	37	4.2%	44	44.4%	37	51.5%	5	61	4
新井	87	46	4.7%	42	44.2%	38	51.2%	6	58	14
湯川	1,218	13	5.8%	41	43.6%	40	50.6%	7	60	7
猪戸	666	21	7.2%	31	42.4%	42	50.4%	8	59	10
静海町	254	32	4.4%	43	45.8%	33	49.8%	9	59	11
中央町	339	29	6.5%	36	43.8%	39	49.7%	10	60	5
幸町	184	40	9.2%	16	41.8%	44	48.9%	11	56	24
未広町	315	30	6.7%	35	45.2%	35	48.1%	12	58	12
八幡野	7,224	2	9.1%	17	42.9%	41	48.0%	13	57	19
銀座元町	242	35	6.8%	34	45.5%	34	47.7%	14	57	15
弥生町	217	38	6.5%	37	45.8%	32	47.7%	15	59	9
和田	550	22	6.1%	39	46.8%	28	47.1%	16	58	13
物見ヶ丘	157	44	7.0%	32	45.9%	31	47.1%	17	59	8
岡広町	217	38	8.9%	18	44.6%	36	46.5%	18	56	21
富戸	6,161	4	8.1%	24	45.9%	29	46.0%	19	57	20
池	1,278	11	8.4%	21	45.9%	30	45.7%	20	56	22
桜ガ丘	417	26	6.4%	38	47.9%	24	45.6%	21	57	16
瓶山	363	27	4.1%	45	51.4%	13	44.5%	22	57	18
芝町	354	28	8.2%	23	47.4%	26	44.3%	23	55	28
湯川1~4丁目	1,000	14	8.4%	20	47.3%	27	44.3%	24	56	23
松原本町	251	34	8.0%	25	47.8%	25	44.2%	25	57	17
十足	1,379	10	7.5%	29	48.9%	21	43.6%	26	55	25
竹の台	166	42	7.9%	26	48.8%	22	43.3%	27	55	30
桜木町	546	23	9.7%	14	48.7%	23	41.6%	28	55	29
馬場町	679	20	9.7%	13	49.0%	20	41.3%	29	54	32
松原	860	15	7.6%	28	51.1%	16	41.3%	30	55	27
岡	3,288	8	7.8%	27	51.3%	14	40.9%	31	55	31
寿町	252	33	7.0%	33	52.3%	9	40.7%	32	54	33
松川町	114	45	8.8%	19	50.9%	18	40.4%	33	55	26
南町	511	24	8.2%	22	52.1%	10	39.6%	34	53	35
湯田町	295	31	9.7%	12	51.3%	15	39.0%	35	53	36
竹の内	729	17	10.3%	11	51.0%	17	38.8%	36	52	40
宮川町	441	25	11.6%	6	49.8%	19	38.6%	37	52	37
広野	695	19	9.5%	15	52.5%	6	38.0%	38	52	38
宇佐美	9,383	1	10.5%	9	51.5%	12	38.0%	39	52	39
音無町	240	36	10.5%	10	52.3%	8	37.2%	40	53	34
鎌田	2,186	9	11.3%	7	51.8%	11	36.9%	41	51	42
大原	1,244	12	10.6%	8	52.8%	5	36.6%	42	51	41
川奈	7,023	3	13.3%	2	52.3%	7	34.3%	43	49	44
渚町	172	41	12.9%	3	53.8%	4	33.3%	44	51	43
吉田	3,444	7	12.9%	4	54.3%	3	32.9%	45	49	45
荻	6,053	5	12.0%	5	56.9%	2	31.0%	46	49	46
玖須美元和田	5,152	6	14.1%	1	58.3%	1	27.6%	47	46	47
市全体	68,345	-	10.1%	-	50.2%	-	39.7%	-	53	-

※各項目の上位 5 地域を赤の太字・薄赤色背景で、下位 5 地域を緑の斜体太字・薄緑色背景で表示。各年代の比率は、総人口から年齢不詳の人口を除いて算出

ウ. 人口分布

地域別の人口密度は、中心市街地のほかに市南部の八幡野地区などが高い傾向にあります。
学区別の児童数も、同様の傾向があります。

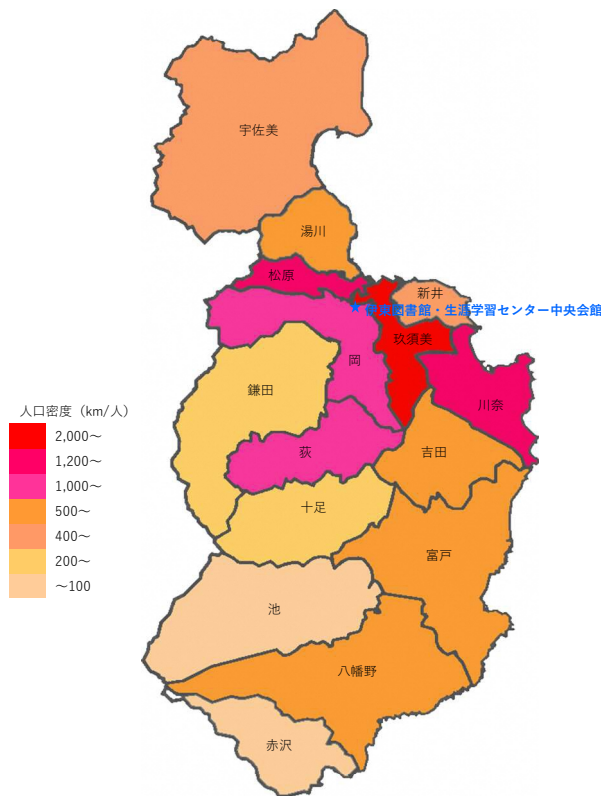


図 2-3 地区別人口密度

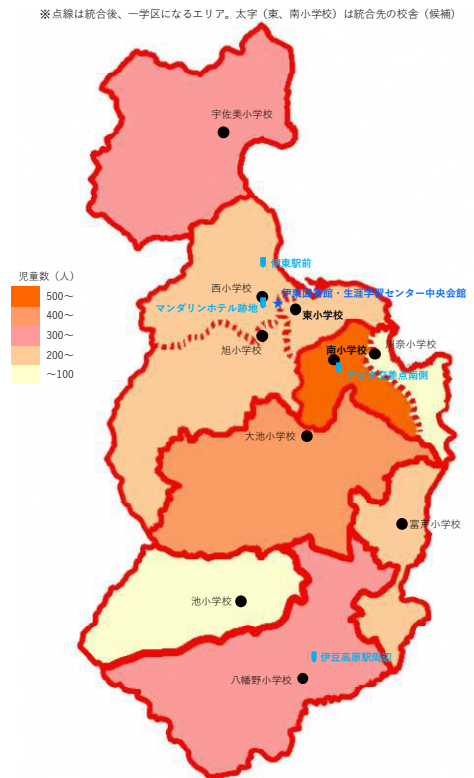


図 2-4 学区別児童数

(3) 産業・観光

平成 27 年の国勢調査では、第一次産業従事者は 2.6%である一方、第三次産業従事者は 80.3%を占めるなど、本市は観光産業を基幹産業とした産業形態をなしていることがわかります。

観光客数は増加傾向にあり、特に宿泊者数は、増加傾向で推移しています。

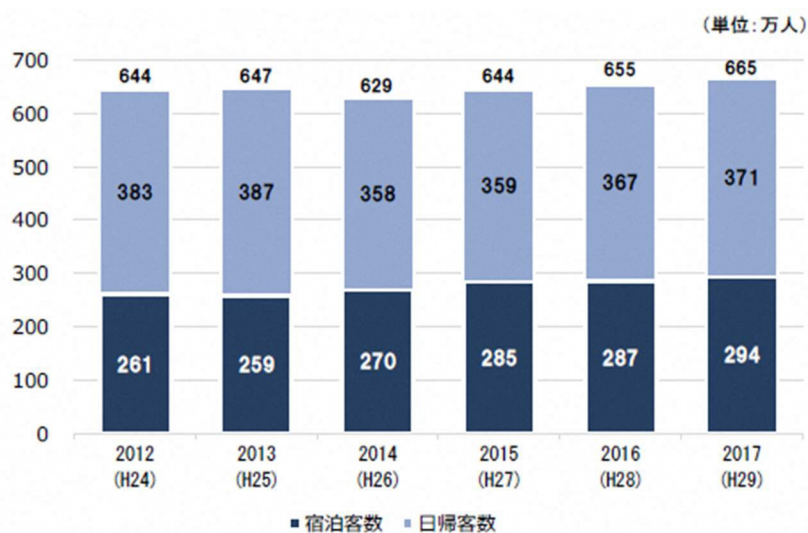


図 2-5 観光客数の推移
※第 3 次伊東市観光基本計画より

2-1-2 関連計画等

本市では、「第四次伊東市総合計画」（以下、「総合計画」という。）、「伊東市都市計画マスタープラン」等のまちづくりの基本となる計画を策定し、施策ごとに個別の計画を定めています。

本構想の策定に当たっては、目指す将来像やまちづくりの指針を踏まえて進める必要があります。この項では、上位・関連計画と現図書館等に関わる施策について整理します。

(1) 上位計画

ア. 第四次伊東市総合計画（平成 23 年 4 月策定）

▶ 計画の概要、位置付け、目的など

総合計画は、伊東市の将来像及びその実現の方向を示した政策大綱等からなる「基本構想」、前期・後期の各 5 年間で計画期間とした「基本計画」、基本計画の達成状況について毎年検証・再評価を行う「実施計画」で構成する本市のまちづくりの指針となる計画で、令和 2 年度を目標年次としています。

総合計画では、これからのまちづくりを進める上での基本理念を「自立と共生」「交流と連携」「参画と協働」とし、「ずっと住みたい また来たい 健康保養都市 イトウ」を将来像としています。

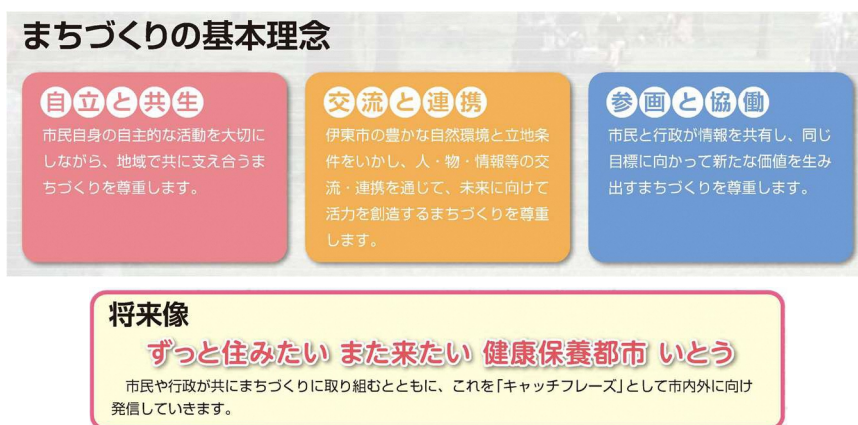


図 2-6 第四次伊東市総合計画の構成

なお、現在は令和 3 年度を始期とする「第五次伊東市総合計画」策定に向けて、未来ビジョン会議、地域タウンミーティング、高校生ワークショップ等を実施し、市民協働による検討を進めています。

▶ 現図書館等に関連する内容

総合計画の後期基本計画である「第十次基本計画」の「政策目標 3 心豊かな人を育み、生涯にわたって学習できるまち」において、生涯学習活動の推進に対する成果指標を下表のとおり定めています。

表 2-2 生涯学習活動の推進に対する成果指標

指標	指標の内容・出所等	現状 (H22)	現状 (H27)	目標値 (H32)	目標値の考え方
市民 1 人当たりの生涯学習活動の参加回数	生涯学習センター及びコミュニティセンターで実施した生涯学習活動の年間参加者延べ人数／伊東市人口	平成 21 年度 2.09 回	平成 26 年度 2.23 回	3.12 回	参加者の 4 割増加を目指す。
市民 1 人当たり図書貸出し冊数	移動図書館を含む市立図書館での年間の図書貸出し冊数	平成 21 年度 2.86 冊	平成 26 年度 3.10 冊	5.90 冊	5 年で現在の県内平均まで高めるよう設定

イ. 伊東市都市計画マスタープラン(第二次) (平成 25 年 3 月策定)

➤ 計画の概要、位置付け、目的など

都市計画の基本的な方針を定める「伊東市都市計画マスタープラン」は、総合計画や「伊東国際観光温泉文化都市建設計画都市計画区域の整備、開発及び保全の方針」(平成 23 年 3 月静岡県策定)を踏まえ、平成 25 年 3 月に一部改定を行いました。おおむね 20 年後の将来像として、「自然と調和した健康保養都市」を全体構想の基本目標としています。

➤ 現図書館等に関連する内容

「第 3 章 都市施設基本計画」の中で、伊東市立図書館には「施設水準の向上や利用しやすいサービスの充実」が求められています。

(2) まちづくり分野の関連計画

ア. 伊東市まち・ひと・しごと創生人口ビジョン・総合戦略 (平成 27 年 10 月策定)

➤ 計画の概要、位置付け、目的など

「伊東市まち・ひと・しごと創生人口ビジョン・総合戦略」(以下「総合戦略」という)は、平成 26 年に公布の「まち・ひと・しごと創生法」「まち・ひと・しごと創生に関する基本方針」を踏まえて、新たなまちづくりに踏み出していくための指針として策定したものです。ずっと住みたいと思う環境づくりを推進し、長期的に若い世代の結婚・子育ての希望の実現に取り組むことで出生率を上昇させ、令和 42 年に人口 42,000 人を確保することを目指しています。

計画期間は、平成 27 年度から令和元年度までの 5 年間で予定していましたが、総合計画の計画期間とそろえることにより、K P I (重要業績評価指標)の適切な設定及び効果的な進捗管理を行うため、1 年延長して令和 2 年度までの 6 年間に変更しました。下記の 4 つの基本目標は変更せず、K P I の目標値の変更を行っています。

◇ 総合戦略の 4 つの基本目標

1. 安定した雇用を創出する
2. 新しいひとの流れをつくる
3. 若い世代の結婚・出産・子育ての希望をかなえる
4. 時代に合った地域をつくり、安心な暮らしを守るとともに、地域と地域を連携する

➤ 現図書館等に関連する内容

「総合戦略」の中で図書館は、「情報拠点施設として、図書資料の充実やインターネット蔵書公開システムにより、市民の利便を図るとともに、新図書館の建設について、調査、研究を進めます。」とされ、図書館機能の充実を推進するとしています。

イ. 伊東市公共施設等総合管理計画 (平成 28 年 3 月策定)

➤ 計画の概要、位置付け、目的など

「伊東市公共施設等総合管理計画」は、公共施設等を長期的な視点から効果的かつ効率的に活用し、運用していく視点を持つことが重要であることから、計画的、効率的に公共施設等の整備や維持管理を行い、施設の長寿命化や統廃合を進めることにより将来負担の軽減を図ることを目的として策定した計画です。

➤ **現図書館等に関連する内容**

「4章 施設類型ごとの管理に関する基本的な方針」において、現図書館等については耐震設計となっていないことから新設を検討するとしています。

(3) 図書館サービスの関連計画

ア. 第三次伊東市子ども読書活動推進計画（令和2年3月策定）

➤ **計画の概要、位置付け、目的など**

「第三次伊東市子ども読書活動推進計画」は、子ども読書活動の推進に関する法律第8条及び第9条の規定に基づいて策定された「第四次子供の読書活動の推進に関する基本的な計画」及び「静岡県子ども読書活動推進計画第三次計画」を基本とした計画で、本市における子どもの読書活動の目指すべき姿を示すものです。

令和2年度から令和6年度までの5年間を計画期間としています。

◇ **基本方針**

1. 子どもが読書の楽しさを知る機会の提供に努めます。
2. 読書環境の整備・充実に努めます。
3. 家庭、地域、学校、図書館等、関係機関の連携を強化します。
4. 子どもの読書活動の意義や重要性を啓発するとともに、普及するための広報活動に努めます。

表 2-3 伊東市子ども読書活動推進計画の努力目標

項目	平成25年度 (実績)	平成30年度 (実績)	令和6年度 (目標)
児童図書蔵書冊数	40,558冊	46,828冊	50,000冊
児童図書の年間貸出冊数 (12歳以下の子ども1人当たり)	10.3冊	8.1冊	12冊以上

➤ **現図書館等に関連する内容**

伊東市立図書館を情報拠点施設と位置付け、伊東市立図書館を中心に、家庭、地域、学校等と連携を図り、子どもの読書活動を支援することとしています。具体的な施策は下記のとおりです。

◇ **読書環境の整備充実**

- 子どもにとって豊富な蔵書から読みたい本を探し、読書の楽しみにつなげる場の創出
- 特別な支援を必要とする子どもの読書活動支援（録音図書、点字図書、難しい漢字や長文が無く読みやすい「バリアフリー図書」や外国語で書かれた図書等の充実）
- 移動図書館のサービスの拡充など

◇ **児童サービスの強化**

- 調べ学習の支援や本の紹介
- イベントの実施
- 「ブックスタート事業」の継続及び本事業未実施の乳児に対する参加を促す再通知、健診時等での絵本の配付

◇ **連携協力体制の確立**

- 広報誌やメール等による情報提供
- 静岡県子ども読書アドバイザーの派遣
- ボランティアとの連携

(4) 現図書館等に関する施策

ア. 図書館・文化ホール建設に向けた整備の方向性（平成 30 年 3 月策定）

▶ 計画の概要、位置付け、目的など

観光会館、観光会館別館、現図書館等において、老朽化、耐震性に課題があり、建替え、大規模修繕等の対応が必要となっていることから、図書館・文化ホールの建設について、5か所の建設候補地（伊東駅前、マンダリンホテル跡地、市民グラウンド、アピタ交差点南側及び伊豆高原駅周辺）ごとに両施設の整備の方向性を整理したものです。（※その後、市民グラウンドは、人工芝生化事業のため候補地から除外）

イ. 図書館・文化ホール建設に向けた検討会 中間報告（令和元年 10 月報告）

▶ 計画の概要、位置付け、目的など

「図書館・文化ホール建設に向けた整備の方向性」に基づき、建設候補地及び建設形態について検討を行う「図書館・文化ホール建設に向けた検討会」を設置し、検討を行いました。

◇ 検討経過

- 平成 31 年 3 月 25 日に市長へ以下 3 点の方向性を報告
 - ① 建設形態については、図書館と文化ホールを別の場所に建設する。
 - ② 建設候補地については、市内小・中学校の適正配置及び県立高校の統廃合の方向性を見つつ、平成 31 年度も継続して検討する。
 - ③ 検討に当たり、図書館の建設候補地案から検討を行い、その後、文化ホールの建設候補地案について検討を進める。
- 令和元年 10 月 1 日に開催した第 7 回図書館・文化ホール建設に向けた検討会において、新図書館の建設地として「マンダリンホテル跡地」を選定

ウ. 地域タウンミーティング、未来ビジョン会議

平成 30 年度に地域タウンミーティング、未来ビジョン会議を開催し、図書館・文化ホール建設についての市民意見を把握しました。

地域タウンミーティングは、全 15 地区 15 会場で行い、図書館・文化ホールについて多数の意見が寄せられました。

未来ビジョン会議は、20～40 代を中心にしたメンバーにより、テーマに沿った協議・検討を行い、市長と直接意見交換等を行うものです。平成 30 年度の第 2～4 回会議において、「新しい図書館・文化ホール建設について考える」のテーマでグループワークを行い、新施設のコンセプト等の提案を受けました。

◇ 地域タウンミーティング、未来ビジョン会議等の主な意見

- ・ 読書をしなくても誰もが行ってみたいと思う図書館
- ・ 全世代が交流できる図書館
- ・ 自然・郷土の文化財・温泉
- ・ 子育て充実な図書館
- ・ 生活向上や文化発展に結びつく、情報センターや学習の場
- ・ 国際観光温泉文化都市にふさわしい図書館
- ・ 花と海といで湯のまち伊東がイメージできる図書館
- ・ 伊東というまちの生い立ち、歴史が理解できる図書館
- ・ 中学・高校・大学と進学しても使いやすいと思える機能

- 貸出等に係る電子化
- 全体的にゆとりのある空間
- ミニシアターの併設
- 広い学習室
- 電子図書館
- ギャラリー
- カフェなどの飲食スペース
- 託児コーナー
- 庭を設け、四季折々の花、花木が楽しめる施設
- ジオ資料館、伊東にゆかりのある伊東祐親、アダムス、文人墨客等について学べる施設
- 観光客が伊東を理解できる伊東学コーナー
- シェアオフィス

エ. 大池小学校総合学習

伊東市立大池小学校の4年生59人は、平成30年10月から3か月間、総合学習授業の一環として、「誰もが使える図書館」をテーマとし、班ごとに地下1階から地上4階までのフロアごとに描いたイメージ図とともに、理想の図書館の考えをまとめ、発表会を行いました。

その後、発表会での投票で選ばれた2案は「市長への手紙」として市長のもとへ提出されました。代表として選ばれたのは、①図書館をつまらないと思う子どもや、疲れた大人、外国人、障がい者など、「だれでも安心してすごせる未来の図書館」と、②犬や猫などとともにすごせる「ゆめと生き物安心図書館」の2案です。

「だれでも安心してすごせる未来の図書館」では、お菓子を食べたり、リラックスしながら過ごせる子ども専用ルームやプール、足湯などのほか、託児所や外国語と日本語で本を読んでもくれるバイリンガルペッパーくん、疲れた大人を癒してくれるマッサージチェア付きルーム、取り放題の果物の木など、幅広い層に向けたユニークなアイデアが多く挙げられました。

「ゆめと生き物安心図書館」は、障がい者の負担を軽減するため、1・2階には書架を配置し、本が自動で元の位置に返却される「自動ポスト」を設置、3・4階には犬や猫と触れ合える部屋やプラネタリウム、ブランコ、トランポリンなどが置かれた屋上遊園などのアイデアが挙げられました。

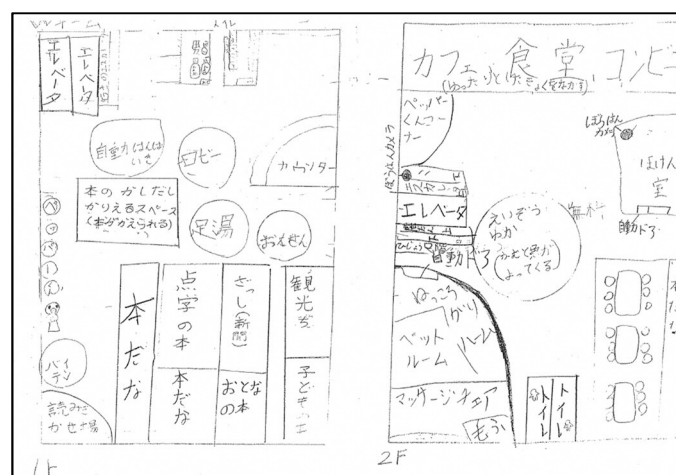


図 2-7 「だれでも安心してすごせる未来の図書館」の案

2-1-3 現図書館等における現状

(1) 伊東図書館

ア. 概要

伊東市の図書館は、大正4年11月に伊東尋常高等小学校内に伊東町立図書館が開設したことに始まり、市制施行に伴って昭和23年11月には伊東市立図書館となりました。その後、市立図書館は昭和26年に桜木町の旧館（現在の伊東幼稚園）に移転し、昭和55年11月には社会教育センター（現在の伊東市生涯学習センター中央会館）と併設された伊東図書館として現在の敷地に新築され、以来40年にわたり運営を行っています。



図 2-8 現図書館等外観

現図書館等は地上4階建てで、1・2階部分が図書館です。施設全体の床面積2,713㎡のうち伊東図書館は954㎡で、1階は閉架書庫・移動図書館専用車庫・書庫で、2階は開架書架と閲覧スペースとし、108席の閲覧席を設置しています。

また、「郷土資料コーナー」には伊東市出身の文学者「木下杢太郎」に関する資料や、「温泉」「火山」「地震」等の資料を重点的に収蔵しています。児童向けにも「伊東の昔話」「民話集」など地域に伝わる伝承についての独自資料の収集を行っており、地域に根差した伊東市ならではの図書館サービスを行っています。

表 2-4 伊東図書館沿革（抜粋）

年月	項目
大正4年11月	伊東尋常高等小学校内に町立図書館を開設
昭和23年11月	伊東市立図書館となる
昭和53年12月	物見ヶ丘公園内に大原児童図書館を開館
昭和55年11月	社会教育センター及び市立図書館、新築・落成
昭和58年8月	移動図書館車「ともだち号」が巡回を開始
平成3年6月	出張読み聞かせ「おはなし宅急便」スタート
平成10年4月	図書館コンピュータシステム運用開始
平成15年10月	ブックスタート事業開始
平成22年10月	ホームページによる蔵書公開及び予約システムが稼働 利用者用インターネット閲覧パソコン設置
平成27年3月	伊東市子ども読書活動推進計画－第二次計画－策定
平成27年11月	図書館開設100周年記念事業講演会開催
平成28年8月	館内Wi-Fiの導入

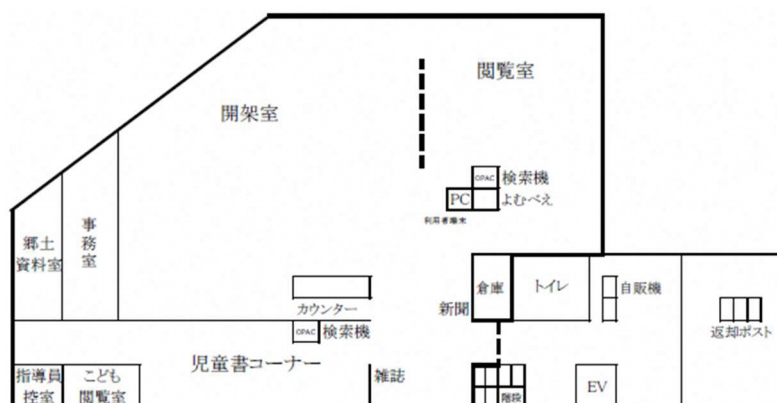


図 2-9 伊東図書館2階フロア図

表 2-5 伊東図書館施設概要

開館：昭和 55 年 11 月 1 日
所在地：伊東市音無町 5 番 14 号
併設施設：伊東市生涯学習センター中央会館
構造：鉄筋コンクリート造 4 階建て（1・2 階が図書館）
面積：2,713 m ² （うち図書館専用床面積：954 m ² ）
施設：1 階…閉架書庫、移動図書館車庫と書庫
2 階…開架書架、閲覧スペース
閲覧席：108 席
蔵書検索用コンピュータ端末：2 台
インターネット閲覧用パソコン：1 台
音声・拡大読書機「よむべえ」：1 台

イ. 利用について

伊東図書館の開館時間は午前 9 時 30 分から午後 6 時までで、月曜日・祝日及び年末年始と館内整理日、蔵書点検期間を休館日としています。

貸出冊数は 1 人当たり図書 8 冊と視聴覚資料 2 点までで、貸出期間は 2 週間です。

表 2-6 伊東図書館利用案内概要

開館時間：午前 9 時 30 分から午後 6 時まで
休館日：月曜日
祝日
年末年始（12 月 29 日から 1 月 3 日まで）
月末館内整理日（月の最終日：その日が土曜日・日曜日又は上記休館日に当たる場合はその前日）
蔵書点検期間
貸出冊数・期間：1 人（1 カード）当たり図書 8 冊と視聴覚資料 2 点まで、2 週間
利用者登録できる方：伊東市に住民登録のある方
伊東市に勤務・通学している方
伊東市に別荘等を所有している方
熱海市・沼津市・伊豆市・東伊豆町に住民登録があり図書館利用者カードをお持ちの方

ウ. 蔵書数

平成 31 年 4 月 1 日現在の図書館の蔵書構成は、図書資料 174,451 点、視聴覚資料 3,391 点、雑誌 12,278 点の合計 190,120 点です。

図書資料のうち、一般書は 72.5% (126,438 点) で児童書は 21.2% (37,047 点)、郷土資料は 5.6% (9,717 点) を占めます。

一般書では、文学が 40.9% と一番割合が多く、次いで社会科学、歴史の分野を多く所蔵しています。

児童書の内訳は児童書 65.1%、絵本 33.2%、紙芝居 1.7% です。

郷土資料は、静岡県や本市に関する資料のほか、本市出身で文学者である「木下杢太郎」に関する資料、本市の自然に深く関わる「温泉」に関連する資料を重点的に収集しています。

視聴覚資料は CD・DVD を重点的に収集し、充実に努めています。

雑誌は 87 タイトル、新聞は 8 紙を購入しています。

表 2-7 伊東図書館蔵書数

分類	所蔵数 (冊)	構成比
一般	126,438	72.5%
総記	7,993	(6.3%)
哲学	5,130	(4.1%)
歴史	12,668	(10.0%)
社会科学	19,297	(15.3%)
自然科学	8,474	(6.7%)
技術	6,543	(5.2%)
産業	3,808	(3.0%)
芸術	8,888	(7.0%)
言語	1,935	(1.5%)
文学	51,702	(40.9%)
児童書	37,047	21.2%
児童書	24,119	(65.1%)
絵本	12,287	(33.2%)
紙芝居	641	(1.7%)
郷土資料	9,717	5.6%
洋書	684	0.4%
点字本	201	0.1%
大活字本	364	0.2%
小計	174,451	100.0%
視聴覚資料	3,391	-
雑誌	12,278	-
合計	190,120	-

エ. 利用状況

貸出数、登録者数、予約数、レファレンス件数の平成 26 年度、平成 30 年度の実績は右表のとおりです。

貸出数は減少しており、平成 30 年度は平成 26 年度の 93.6% となっています。平成 30 年度の年代別貸出数の構成率は、小学生以下が 14.8%、中高生が 2.1% で、中高生の利用が少ない傾向にあります。

登録者数は増加しており、特に Web 予約登録者は、平成 30 年度は平成 26 年度より 1.6 倍に増加しましたが、年度内利用実人数は平成 26 年度に比べ 7% 減少しています。

平成 30 年度の予約数は 15,464 件で、53.4% が Web からの予約です。

平成 30 年度のレファレンス件数は平成 26 年度に比べ 2 倍に伸びています。

表 2-8 利用状況

項目		平成26年度	平成30年度	平成26年度との比較
貸出数 (冊)	貸出数合計	186,847	174,860	93.6%
	小学生以下 (構成率)	27,125 (14.5%)	25,846 (14.8%)	95.3%
	中高生 (構成率)	3,243 (1.7%)	3,738 (2.1%)	115.3%
	一般 (構成率)	156,479 (83.7%)	145,276 (83.1%)	92.8%
登録者数 (人)	登録者数	29,706	33,728	113.5%
	新規登録者	1,163	1,075	92.4%
	Web 予約登録者	1,030	1,664	161.6%
	年度内利用実人数	6,488	6,031	93.0%
予約数 (冊)	予約数合計	10,405	15,464	148.6%
	窓口予約 (構成率)	5,426 (52.1%)	6,964 (45.0%)	128.3%
	館内利用者端末 (構成率)	-	244 (1.6%)	-
	Web 予約 (構成率)	4,979 (47.9%)	8,256 (53.4%)	165.8%
レファレンス件数 (件)		3,890	7,968	204.8%

オ. 各種イベントや催事の実施状況（平成 30 年度）

➤ ブックスタート

7～9 か月児を対象に読み聞かせを行うほか、絵本 2 冊を手渡しています。平成 30 年度は対象者 294 名に対し、234 名（対象者の 79.6%）に実施しました。

➤ 読み聞かせ

学校、幼稚園、福祉施設等への定期的な出張読み聞かせ「おはなしともだち号」のほか、「土曜おはなし会」として毎週土曜日の午前中にボランティアによる読み聞かせを行っています。

また、春・夏・冬に大型絵本や大型紙芝居などの読み聞かせを行う「おはなし会」も開催しています。

表 2-9 読み聞かせ実施回数・参加人数

各種イベント名	実施回数	参加人数 (延べ)	1回当たり 人数
出張読み聞かせ	73回	2,222人	30.4人
土曜おはなし会	44回	329人	7.5人
はるのおはなし会	1回	55人	-
なつのおはなし会	1回	53人	-
ふゆのおはなし会	1回	64人	-

➤ こどもの読書週間・読書週間事業

平成 30 年度は、こどもの読書週間に合わせて、絵本作家のいわいとしお氏によるワークショップ「くもさんののりものをつくろう！」を実施し、138 人と多くの参加者を集めました。

また、読書週間には絵本作家のきむらゆういち氏の講演会を開催しました。

➤ その他児童・中高生向けの行事・サービス

「ぬいぐるみの図書館おとまり会」（2 回）、めいろづくりやクリスマスリースづくりなどのワークショップを開催しています。

このほかにも、学校の夏休み等に合わせ、中央会館 3 階会議室を学習室として開放しています。

➤ 特集コーナー

一般、児童それぞれに特集コーナーを設けて資料の紹介を行っているほか、移動図書館でも年 5 回実施しています。

➤ 障がい者サービス

大活字本、点字付き絵本を定期的に購入し、資料の充実を図っています。

また、音声拡大読書機「よむべえ」を設置し、視覚障害者の読書支援を行っています。

(2) 市全体の図書館サービス

ア. 大原児童図書館

大原児童図書館は昭和 53 年、物見ヶ丘公園内に開館しました。児童書を中心に、6,000 点の資料を所蔵しています。

開館日は毎週火・木・土曜日の午後 3 時から午後 5 時までです。



図 2-10 大原児童図書館

イ. 移動図書館

移動図書館は昭和 58 年に運行を開始し、現在は「ともだち号」の愛称で、市立小学校等を中心に市内 21 か所のステーションを月 2 回巡回しています。



図 2-11 移動図書館（ともだち号）

1	芝原公園
2	大池小学校
3	元ナガイ川奈店駐車場
4	宇佐美小学校
5	川奈小学校
6	伊豆急伊豆高原管理事務所
7	東小学校
8	生涯学習センター萩会館
9	ゆうゆうの里
10	伊豆高原十字の園
11	富戸小学校
12	南小学校
13	吉田公園
14	旭小学校
15	イトーピア管理事務所
16	大室高原自治会館
17	八幡野小学校
18	生涯学習センター池会館
19	角折住宅
20	城平住宅
21	鎌田公園

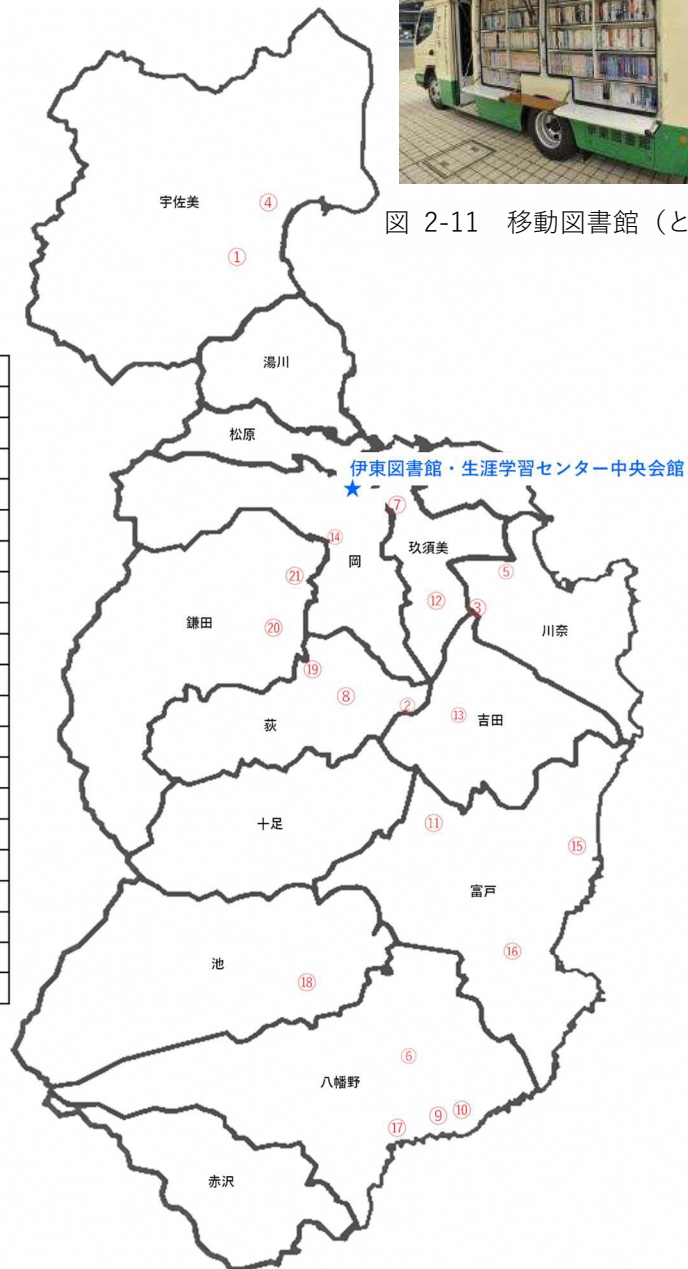


図 2-12 移動図書館ステーション一覧

(3) 伊東市生涯学習センター中央会館

ア. 概要

伊東市生涯学習センター中央会館は、複合施設3・4階部分に位置し、会議室や研修室、視聴覚室、トレーニング室等を備えた延床面積1,520㎡の施設です。

趣味講座や教養講座、学級教室などの各種講座の開催のほか、学習に関する相談や資料及び情報提供、サークル活動への支援など、市民の学習、文化活動に関する様々な支援を行っています。

活発な活動が行われていますが、下図のとおり、利用者数は、平成26年度の40,653人に比べ、5年間で74.1%まで減少して平成30年度は30,136人となり、平成30年度の利用率も36.7%と平成26年度より17.6ポイント減少しています。

平成30年度の利用者内訳は、生涯学習関係団体が67.9%を占めており、次いで教育委員会主催事業が24.9%となっています。

時間帯別利用状況は、午前32.9%、午後37.6%、夜間29.5%であり、時間帯に偏りはありません。

表 2-10 生涯学習センター中央会館諸室収容人数

階	部屋名	収容人数 広さ
4階	第1会議室	100人
	第2会議室	30人
	第1研修室	30人
	第2研修室	20人
	美術工芸室	30人
3階	第1和室	6畳+8畳
	第2和室	10畳
	視聴覚室	50人
	展示兼トレーニング室	40人

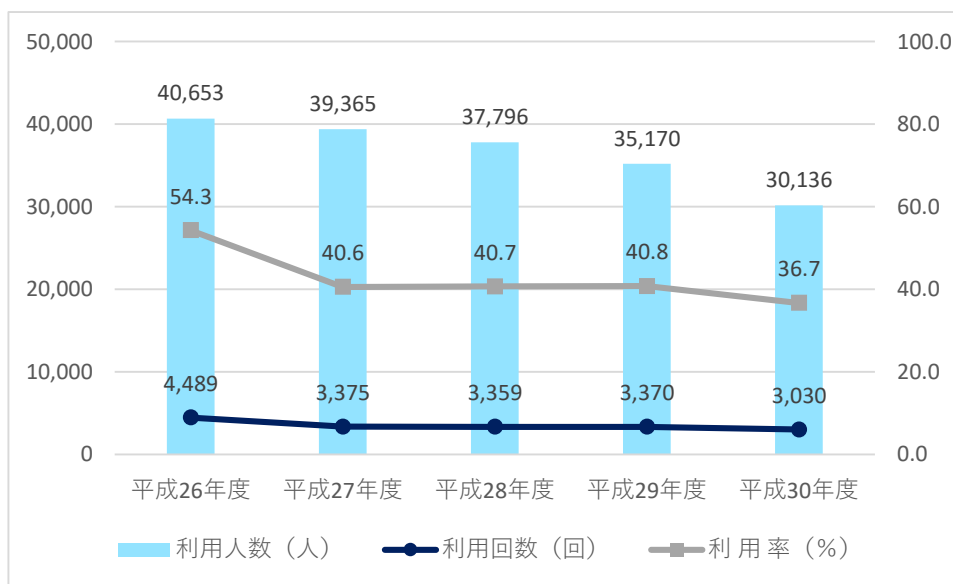


図 2-13 生涯学習センター中央会館利用統計推移

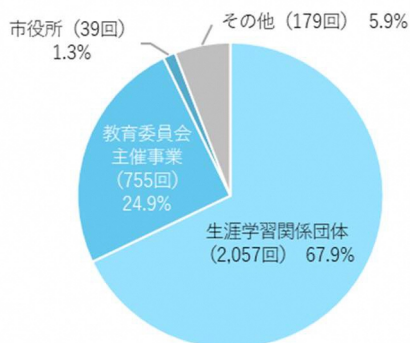


図 2-14 平成30年度団体別利用回数

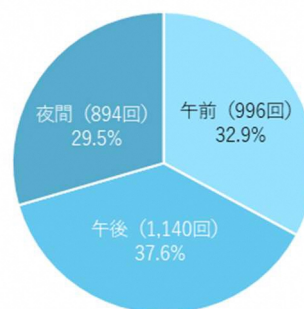


図 2-15 平成30年度時間帯別利用回数

イ. 成人教育事業

成人教育事業の拠点として、様々な学習要望に応じた機会を提供するための事業を行っています。その中でも、昭和 56 年度から開設している市民大学講座は、講座修了者のアンケートから希望の講座を把握し、次回以降の講座の企画に取り入れるほか、市民の生涯学習ニーズに応えられる内容を取り入れるよう努めています。平成 30 年は全 3 回から 8 回の 10 講座、計 58 回を開催し、出席率は 8 講座で 90%を超えました。

表 2-11 平成 30 年度成人教育事業一覧

事業名	参加者数	内容
市民大学講座	10講座132人	教養、趣味、実技等の講座
家庭教育学級	26学級568人	講演、一般教養（児童の父母対象）
楽しく学ぶ子育て講座	25人	子育てに関する講話、一般教養（父母対象）
いでゆ大学	55人	趣味教養の充実、仲間づくり

(4) 現図書館等の施設

現図書館は、高い書架が多く並び、柱と書架の幅が極めて狭い箇所もあり、バリアフリーの対応も十分ではありません。

また、特徴的な取組である「木下柰太郎コーナー」や「温泉コーナー」が配架される郷土資料室は施設の一番奥に位置し、床面積も小さいため、市民の認知度が低く、利用しにくい状況となっています。

さらに図書館と生涯学習センター中央会館の入口は建物の構造上、やや暗い印象があり、それぞれの入口も分かれているため、お互いの利用者が完全に分離し、回遊性による新たな利用が生まれにくい状況になっています。



図 2-16 現図書館等入口

(5) 現図書館等の駐車場

駐車場 22 台、仮設駐車場 56 台の計 78 台の駐車スペースを備えています。

施設西側の駐車場はややいびつな形状で、台数も少ないことから、新図書館建設予定地であるマンダリンホテル跡地に仮設駐車場を設置しています。

仮設駐車場は図書館、中央会館、ひぐらし会館の共用で、ホールを備えるひぐらし会館での事業開催時にはかなりの台数が駐車することもあります。また、現図書館等から 400mほど離れているため、利用しやすいとは言い難い状況にあります。

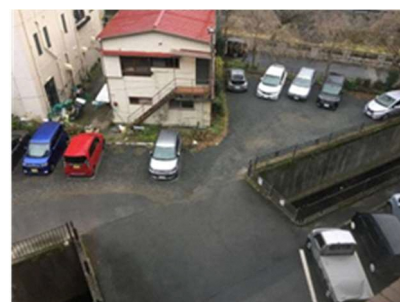


図 2-17 現図書館等駐車場

2-2 図書館の設置及び運営上の望ましい基準及び同規模自治体等との比較

2-2-1 図書館の設置及び運営上の望ましい基準との比較

「図書館の設置及び運営上の望ましい基準（平成 24 年 12 月 19 日 文部科学省告示第 172 号）」（以下、「望ましい基準」という。）の延床面積、蔵書冊数、貸出数等との比較では、下表のとおりほとんどの項目が望ましい基準を下回っています。1㎡当たりの冊数は 193.6 冊と基準の 93.5 冊を大きく上回り、館内は非常に窮屈な状態にあります。

表 2-12 望ましい基準との比較

項目	人口 (人)	延床面積 (㎡)	蔵書冊数 (冊)	うち開架 (冊)	開架率	1㎡当たり 冊数 (冊)	貸出数 (冊)	図書館数 (館)
伊東市立図書館	69,597	954	184,728	67,930	36.8%	193.6	199,234	1.0
望ましい基準（～8万人）	67,946	4,097	382,926	248,215	64.8%	93.5	819,141	3.5
基準との差	1,651	▲ 3,143	▲ 198,198	▲ 180,285	▲ 28.0pt	100.1	▲ 619,907	▲ 2.5

※伊東市の人口は平成 30 年 3 月末（外国人含む）

※蔵書冊数（図書資料数）・貸出数は平成 29 年度実績

※望ましい基準の数値目標は「貸出密度上位の公立図書館整備状況・2018」（JLA 図書館調査事業委員会）による

※人口は各人口段階の対象市町村における平均人口、数値は「日本の図書館 2018」による

2-2-2 同規模自治体図書館との比較

本市と同規模自治体（人口 7 万人前後）13 市の図書館（分館等を除く）と比較した結果は下表のとおりです。伊東図書館は施設の延床面積、図書館費の予算額ともに最も低く、その他蔵書冊数、登録者数、貸出数も平均を大きく下回り、現状では人口規模に対して、十分な施設規模ではないと考えられます。

表 2-13 同規模自治体図書館との比較

都道府県名	図書館名	延床面積		奉仕人口		蔵書冊数		人口 1人当たり 蔵書冊数		1㎡当たり 蔵書冊数		うち 開架図書		開架率		登録者数		登録率		貸出数		人口 1人当たり 貸出数		予算額 図書館費 (千円)		人口 1人当たり 図書館費 予算(千円)	
		順位	順位	順位	順位	順位	順位	順位	順位	順位	順位	順位	順位	順位	順位	順位	順位	順位	順位	順位	順位	順位	順位	順位	順位	順位	
静岡県	伊東市立伊東図書館	954	14	70,682	7	184,728	11	2.61	11	193.6	14	67,930	36.8%	11	35,659	50.4%	8	205,879	12	2.91	12	25,523	14	0.36	14		
愛知県	碧南市立図書館	4,327	2	72,082	1	425,922	1	5.91	2	98.4	9	194,391	45.6%	9	50,892	70.6%	6	352,709	9	4.89	9	31,297	13	0.43	13		
千葉県	八街市立図書館	2,072	9	72,006	2	315,996	5	4.39	6	152.5	12	0	0.0%	14	23,629	32.8%	12	282,801	10	3.93	10	39,887	12	0.55	12		
福岡県	太宰府市民図書館	1,485	12	71,915	3	221,785	8	3.08	8	149.4	11	70,111	31.6%	12	24,912	34.6%	11	478,775	3	6.66	4	74,568	5	1.04	6		
埼玉県	吉川市立図書館	2,271	8	71,584	4	423,078	2	5.91	1	186.3	13	265,622	62.8%	4	42,848	59.9%	7	487,982	2	6.82	3	126,597	2	1.77	2		
愛知県	知立市図書館	2,477	7	71,323	5	218,920	9	3.07	9	88.4	6	97,704	44.6%	10	58,107	81.5%	5	407,172	7	5.71	7	69,189	8	0.97	8		
大阪府	柏原市立柏原図書館	1,387	13	70,698	6	132,541	13	1.87	13	95.6	8	72,848	55.0%	5	31,195	44.1%	10	218,571	11	3.09	11	61,930	10	0.88	10		
宮城県	栗原市立図書館	1,809	11	70,530	8	125,749	14	1.78	14	69.5	2	86,245	68.6%	2	22,846	32.4%	13	115,878	14	1.64	14	65,647	9	0.93	9		
山梨県	笛吹市石和図書館	1,887	10	70,421	9	152,462	12	2.17	12	80.8	4	40,632	26.7%	13	78,626	111.7%	2	159,917	13	2.27	13	52,288	11	0.74	11		
埼玉県	鶴ヶ島市立中央図書館	4,255	3	70,061	10	366,657	3	5.23	3	86.2	5	179,422	48.9%	7	105,930	151.2%	1	595,674	1	8.50	1	72,367	6	1.03	7		
北海道	恵庭市立図書館	2,801	6	69,227	11	211,041	10	3.05	10	75.3	3	115,848	54.9%	6	33,386	48.2%	9	476,100	4	6.88	2	127,969	1	1.85	1		
福井県	鯖江市図書館	5,603	1	69,135	12	340,499	4	4.93	4	60.8	1	219,709	64.5%	3	65,038	94.1%	3	364,206	8	5.27	8	98,098	3	1.42	3		
長野県	伊那市立伊那図書館	3,025	4	69,059	13	306,257	6	4.43	5	101.3	10	229,541	75.0%	1	58,391	84.6%	4	445,084	5	6.44	5	81,826	4	1.18	4		
愛知県	豊明市立図書館	2,923	5	68,869	14	275,506	7	4.00	7	94.2	7	127,407	46.2%	8	20,936	30.4%	14	435,462	6	6.32	6	71,743	7	1.04	5		
	平均	2,794		70,532		270,493		3.84		103.0		130,729	48.0%		47,441	67.4%		370,795		5.26		74,877		1.06			

※日本図書館協会出版「日本の図書館 2018」を基に作成

※順位について、最上位を青字、最下位を赤字とした

2-2-3 静岡県 23 市の図書館との比較

静岡県 23 市の図書館と比較すると、下表のとおり、1 人当たりの資料費、1,000 人当たりの蔵書冊数・受入冊数・貸出冊数等の値がかなり低い傾向にあります。

表 2-14 静岡県内図書館との比較

1人当資料費決算額 (見込) (円)		1,000人当所蔵資料 (冊)		1,000人当受入資料 (冊)		1,000人当貸出冊数 (冊)		専任職員1人当奉仕人 口 (人)	
御前崎市	815	御前崎市	8,524	御前崎市	337	御前崎市	11,060	熱海市	4,606
三島市	345	伊豆市	5,871	富士宮市	184	掛川市	7,566	御前崎市	5,424
熱海市	302	掛川市	5,431	富士市	159	富士市	7,213	島田市	6,570
島田市	290	熱海市	4,665	島田市	158	磐田市	7,135	三島市	6,873
富士市	282	下田市	4,575	袋井市	157	富士宮市	6,997	磐田市	8,082
藤枝市	281	裾野市	4,521	藤枝市	148	三島市	6,892	富士宮市	8,843
袋井市	277	湖西市	4,518	掛川市	147	湖西市	6,718	掛川市	9,075
富士宮市	261	磐田市	4,455	三島市	145	藤枝市	6,644	湖西市	9,940
平均	243	富士市	4,317	伊豆市	141	袋井市	5,960	伊豆市	10,226
静岡市	235	三島市	4,310	磐田市	133	島田市	5,905	裾野市	10,341
伊豆市	227	島田市	4,279	湖西市	131	静岡市	5,887	焼津市	11,633
湖西市	226	富士宮市	4,126	平均	125	御殿場市	5,831	伊豆の国市	12,172
磐田市	219	平均	4,034	静岡市	113	平均	5,400	藤枝市	13,176
裾野市	218	藤枝市	3,968	裾野市	112	浜松市	5,389	伊東市	13,772
焼津市	215	伊豆の国市	3,885	熱海市	103	裾野市	5,012	平均	13,794
掛川市	206	袋井市	3,558	焼津市	99	焼津市	4,973	沼津市	13,931
伊豆の国市	185	静岡市	3,226	菊川市	88	伊豆市	4,366	静岡市	13,999
沼津市	185	御殿場市	3,110	下田市	86	沼津市	4,274	富士市	14,078
菊川市	165	浜松市	3,000	沼津市	79	伊豆の国市	3,601	菊川市	16,106
下田市	159	沼津市	2,897	牧之原市	76	菊川市	3,189	浜松市	17,838
浜松市	143	焼津市	2,632	浜松市	75	熱海市	2,926	下田市	21,492
伊東市	140	菊川市	2,601	伊東市	74	伊東市	2,893	袋井市	22,055
御殿場市	135	牧之原市	1,625	伊豆の国市	74	下田市	2,223	牧之原市	22,909
牧之原市	73			御殿場市	64	牧之原市	1,547	御殿場市	44,129

※静岡県立中央図書館が公開している静岡県の図書館統計情報を基に作成

2-3 敷地条件について

新図書館の建設予定地は、4,029.88 m²、住所は桜木町二丁目 672 番 4、マンダリンホテルの跡地です。伊東駅から直線距離で約 1.1 km、南伊東駅から約 0.85 km の距離にあり、最も近いバス停は建設予定地から約 200 m の距離にある「伊東郵便局」（東海バス）で、伊東駅を発着する 10 路線のバス（ピーク時である 7 時、8 時、17 時台には伊東駅方面に 3 本以上）が停車します。

また、近隣には健康福祉センター、生涯学習センターひぐらし会館があります。

現状は更地ですが、伊東図書館、生涯学習センター中央会館、生涯学習センターひぐらし会館の仮設駐車場として利用されており、特にホールを備えるひぐらし会館での事業開催時にはかなりの台数が駐車することがあります。

また本地は津波浸水想定区域（0.3m～2.0m）、洪水浸水想定区域（1.0m～5.0m）に位置しています。

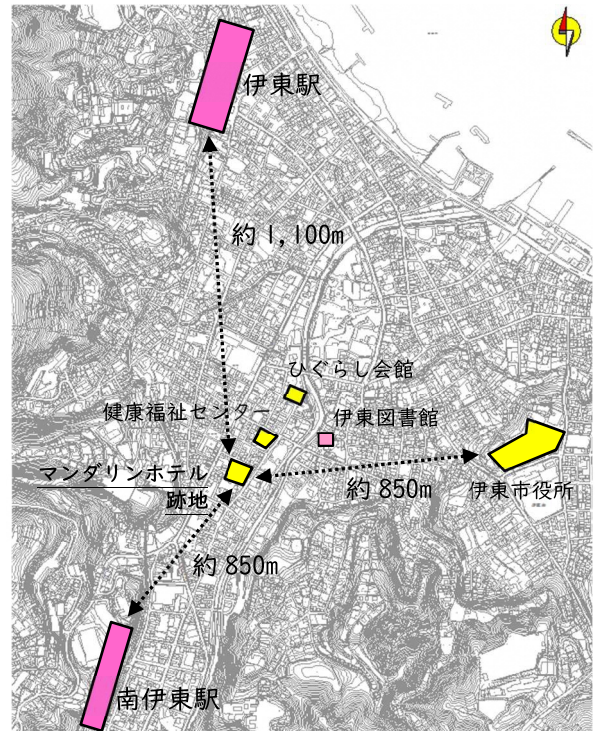


図 2-18 建設予定地周辺の公共施設等の位置関係

表 2-15 建設予定地の概要

建設予定地の地番	伊東市桜木町二丁目 672 番 4 ほか 10 筆
敷地面積	約 4,029.88 m ²
用途地域等による制限	近隣商業地域
	建ぺい率 80%
	容積率 300%
	第 3 種高度地区
	準防火地域
	日影規制なし



図 2-19 建設予定地

3 課題

「2-1 伊東市及び現図書館等の現状」～「2-3 敷地条件について」の内容を以下のようにまとめます。

表 3-1 現状整理まとめ

項目		内容
1 現図書館等、現行サービス及び周辺地域の現状		
1-1 伊東市の概要	地域特性	多くの自然資源、歴史文化資源を持ち、独自の文化が築かれている。 観光を基幹産業として発展
	人口	人口は平成22年頃より減少傾向 高齢化率は39.7%と全国平均の26.7%を大きく上回る。 地域別の人口密度は、中心市街地のほかに市南部が高い。
	産業	第一次産業従事者は2.6%、第三次産業従事者は80.3%を占める。 観光客数は、増加傾向にあり、特に宿泊者数は、毎年順調に増加傾向で推移
1-2 関連計画等	第四次伊東市総合計画	「ずっと住みたい また来たい健康保養都市 いとう」 市民1人当たりの生涯学習活動の参加回数：3.12回（令和2年度目標値） 市民1人当たりの図書貸出数：5.90冊（令和2年度目標値）
	伊東市都市計画マスタープラン(第二次)	施設水準の向上や利用しやすいサービスの充実
	伊東市まち・ひと・しごと創生 人口ビジョン・総合戦略	ずっと住みたいと思う環境づくりを目指すとともに、長期的に若い世代の結婚・子育ての希望の実現に取り組み、出生率を上昇させ、令和42年に人口42,000人の確保を目指す。 情報拠点施設として、図書資料の充実やインターネット蔵書公開システムにより、市民の利便を図るとともに、新図書館の建設について、調査、研究を進める。
	伊東市公共施設等総合管理計画	耐震設計となっていないことから新設を検討
	伊東市子ども読書活動推進計画第三次計画	子どもが読書の楽しさを知る機会の提供に努める。 読書環境の整備・充実に努める。 家庭、地域、学校、図書館等、関係機関の連携を強化する。 子どもの読書活動の意義や重要性を啓発、普及するため、広報活動に努める。 児童図書の蔵書冊数：50,000冊（令和6年度目標値） 12歳以下の子ども1人当たり児童図書の年間貸出冊数：12冊以上（令和6年度目標値）
	地域タウンミーティング、 未来ビジョン会議における意見	読書をしなくても誰もが行ってみたいと思う図書館 全世代が交流できる図書館 自然・郷土の文化財・温泉 子育て充実な図書館 生活向上や文化発展に結びつく、情報センターや学習の場にすべき 国際観光温泉文化都市にふさわしい図書館 花と海という湯のまち伊東がイメージできる図書館 伊東というまちの生い立ち、歴史が理解できる図書館 中学・高校・大学と進学しても使いやすいと思える機能を 貸出等に係る電子化を 全体的にゆとりのある空間 ミニシアターの併設 広い学習室 電子図書館 ギャラリー カフェなどの飲食スペース 託児コーナー 庭を設け、四季折々の花、花木が楽しめる。 ジオ資料館、伊東にゆかりのある伊東祐親、アダムス、文人墨客等について学べる施設 観光客が伊東を理解できる伊東学コーナー シェアオフィス

表 3-1 は次ページに続く

項目		内容
1-3 現図書館等における現状	図書館	<p>昭和55年開館、築40年を迎える。</p> <p>蔵書数190,120点（図書資料174,451点、視聴覚資料3,391点、雑誌12,278点）</p> <p>貸出数は減少傾向、平成26年度比93.6%</p> <p>年代別貸出数は、小学生以下が14.8%、中学生が2.1%。中高生の利用が少ない傾向</p> <p>登録者数は増加傾向</p> <p>予約件数は合計15,464件、半数以上の53.4%がWebからの予約</p> <p>レファレンス件数は26年度に比べ2倍</p> <p>読み聞かせなど児童向け事業を中心に実施</p> <p>「郷土資料コーナー」に「木下杢太郎」「温泉」「火山」「地震」等の資料を重点的に収集</p> <p>児童向けにも「伊東の昔話」「民話集」など地域に伝わる伝承についての独自資料を収集</p> <p>大原児童図書館は火・木・土の午後3時～午後5時のみ開館</p> <p>ともだち号は市内21か所のステーションを月2回巡回</p>
	生涯学習センター中央会館	<p>各種会議室や研修室、視聴覚室、トレーニング室を備える。</p> <p>利用人員は、5年間で74.1%へ減少。平成30年度は30,136人</p> <p>市民大学講座など、生涯学習講座を開催</p>
	施設	<p>高い書架が多く並び、柱と書架の幅が極めて狭い箇所もあり、バリアフリーの対応が不十分</p> <p>郷土資料室は施設の一番奥に位置し、床面積も小さいため、市民の認知度が低く、利用しづらい状況</p> <p>伊東図書館と生涯学習センター中央会館の入口は建物の構造上、やや暗い印象</p> <p>入口が分かれているため、お互いの利用者が完全に分離し、回遊性による新たな利用が生まれにくい状況</p>
	駐車場	台数が少なくややいびつな形状
2 図書館の設置及び運営上の望ましい基準及び同規模自治体との比較		
2-1 図書館の設置及び運営上の望ましい基準との比較		<p>延床面積、蔵書冊数、貸出数いずれの値も望ましい基準を下回る。</p> <p>1㎡当たりの冊数は基準を大きく上回り、館内は非常に窮屈な状態</p>
2-2 同規模自治体図書館との比較		いずれの値も平均を大きく下回る。
2-3 静岡県内図書館との比較		「1人当たりの資料費」「1,000人当たりの蔵書冊数、受入冊数、貸出冊数」が低い。
3 敷地条件について		
敷地条件		<p>マンダリンホテルの跡地</p> <p>伊東駅から約1.1km、南伊東駅から約0.85km、伊東郵便局バス停から約200mの距離</p> <p>近隣には健康福祉センター、生涯学習センターひぐらし会館がある。</p> <p>現状は更地だが伊東図書館、生涯学習センター中央会館、生涯学習センターひぐらし会館の仮設駐車場となっている。</p> <p>津波浸水想定区域（0.3m～2m）、洪水浸水想定区域（1.0m～5.0m）</p>

このまとめを踏まえ、現図書館等の課題を「①伊東市全体の図書館サービス」「②サービス面」「③蔵書面」「④施設面」「⑤敷地面」「⑥ICT等最新サービス」「⑦新型コロナウイルス感染症等への対応」の観点から整理し、抽出します。

今後、課題の解消あるいは拡充のための方策を一つ一つ検討し、この後に検討するコンセプトやサービス内容、施設規模等々がそれを解決するものとなっているかチェックを行いながら、検討を進める必要があります。

① 伊東市全体の図書館サービス

- 市内地域別の人口密度を踏まえると、新図書館建設が予定されるマンダリンホテル跡地は中心市街地としての整備が必然ですが、人口密度の高い玖須美・川奈地区や、南部の伊豆高原駅周辺（八幡野地域）についても、市民への図書館サービス拡充の検討の余地があります。
- 移動図書館の年間巡回回数は月2回程度と少ない状況です。21ステーションのうち、8ステーションは小学校であることから、学校支援としての機能を維持しつつも、他地域についてのサービスの拡充方法の検討が望まれます。
- 「伊東市立小・中学校の規模及び配置の適正化に向けた基本方針」（令和元年8月伊東市教育委員会）や市内児童数の分布図を踏まえると、南小学校区・大池小学校区・八幡野小学校区などにおいて、未来の伊東市を支える小中学生が気軽に読書あるいは伊東市の歴史や文化に触れる施設等が必要であると考えられます。子どもたちの郷土愛（シビックプライド）の醸成により、子どもたちが本市の発展に寄与する人材として成長することが期待されます。

② サービス面

- 利用減を解消するサービスの検討が必要です。
- 新規登録を増やすための周知等の方策の検討が望まれます。
- 利用の少ない中高生に魅力を感じてもらえる事業の検討が望まれます。
- 伊東市の歴史、文化などの魅力発信について、更なるサービス拡充の検討が望まれます。
- 映画会や大規模イベント等の事業拡充と、そのためのスペースの確保が必要と考えられます。
- これまで図書館に訪れなかった市民の来館を促すために交流スペース（カフェ等）の設置を検討する必要があります。
- 総合計画が目指す「健康保養都市」を支援するサービスも検討する必要があります。

③ 蔵書面

- 同規模自治体の平均が約27万冊（開架約13万冊、閉架約14万冊）、望ましい基準では約38万冊（開架約25万冊、閉架約13万冊）であることから、少なくとも同規模自治体平均の27万冊以上の蔵書数を確保する必要があると考えられます。
- 利用の少ない中高生の利用が見込める蔵書の構築を検討する必要があります。
- 郷土資料室には木下奎太郎関連書籍、温泉にまつわる書籍、あるいは伊東市の文化・歴史に関する書籍を収集しています。今後は伊東市の文化・歴史・観光等、更に内容を深めた特色ある蔵書とサービスの拡充とICTなどの利用を通じて、多くの利用者に利活用される方策の検討が望まれます。
- 伊東市の昔話、伊東の民話集など地域に伝わる伝承についての独自資料も多数そろえており、これらは地域における知や文化を収集する図書館の本来の意義から考えても非常に価値のあるものと思われます。このような資料の拡充や更なる利活用（上記、ICTも活用した）が望まれます。

④ 施設面

- 施設の老朽化、バリアフリーの観点から、現代の社会情勢に照らし合わせた施設の検討が必要です。
- 現状の施設は入口が暗く、分かりにくく、生涯学習センターの入口とも分かれているため、お互いの利用者が分離してしまいます。開かれていて入りやすく、かつ、様々な利用者が訪れやすい施設とすることが望まれます。
- 同規模自治体図書館の延床面積の平均は 2,794 m²であり、望ましい基準では 4,097 m²です。また、生涯学習センター機能（現在約 1,520 m²）に加え、図書館・文化ホール建設に向けた検討会、地域タウンミーティング、未来ビジョン会議において意見が出された、これまでに無かったその他機能を実現できる施設規模を検討する必要があると考えられます。
- 閲覧室には 25 席以上の学習席がありますが、曜日・時間帯によっては学生たちで満席となります。このような利用の実態も踏まえた学習席の拡充が望まれます。
- 生涯学習センターと融合し、回遊性が実現される施設であることが望まれます。
- エントランス部などに、人々が憩い、集まるためのラウンジ機能のあるスペースが望まれます。

⑤ 敷地面

- 現在の建設予定地は、津波浸水想定区域（0.3m～2.0m）及び洪水浸水想定区域（1.0m～5.0m）であるため、貴重な資料等を浸水させない方策の検討が必要です。
- 未来ビジョン会議等で広場の活用を求める声もあることから、敷地内に広場を設置するなどの検討も望まれます。
- 駐車場については、建設後は利用増が見込まれることや、建設予定地の仮設駐車場が事業開催時に多く利用されていることなどを考慮に入れて規模を設定していく必要があります。また、設置に当たっては、立体式のらせん状で、車両がすれ違うための通路幅が十分に確保されていない形状の場合、使いにくいことが想定されるため、平地式あるいはゆとりのある立体式やその併用が望まれます。

⑥ ICT等最新サービス

- 生涯学習センター機能との融合化や回遊性を考えた場合、ICTタグシステムの導入による資料管理が大きな効果を発揮すると考えられ、導入の検討が望まれます。
- デジタルアーカイブ導入による貴重資料の公開や観光情報の発信、ファブスペースの設置等が検討されます。

⑦ 新型コロナウイルス感染症等への対応

- 新型コロナウイルス感染症の流行に伴い、現図書館においても一部サービスの制限を行いました。今後、このような事態に面した際、滞りなく利用者へ図書館サービスを提供し続けるためにも、電子書籍の貸出やデジタルアーカイブといった非来館型のサービスを導入・提供し、来館・非来館のどちらでサービスを受けるか利用者が選択できるようにすることや、施設面でも人々が密集しない空間づくりを行うなどの検討を行うことが望まれます。

4 市民の意向の調査

4-1 市民ワークショップ

4-1-1 第1回市民ワークショップ

(1) 概要

令和2年8月より、全3回の市民ワークショップを開催し、市内の中学校・高校から推薦された中高生と、公募により申込みのあった市内在住・在勤・在学の市民（高校生以上）総勢35名が参加しました。

第1回ワークショップでは、現図書館等の概要や、近年の図書館の動向として、図書館の先進事例等を事務局から提示した上で、市民が6グループに分かれ、「現図書館のよいところ、改善点を考える」「新しく図書館に望むことを考える」の2つのテーマに沿って考え、意見交換を行いました。さらに、ワークシート上でサービス面や施設面等の大きな分類から細分化、図解化するという方法で進め、その結果を発表しました。

伊東市新図書館基本構想策定に向けた市民ワークショップ（第1回）の概要

開催日時：令和2年8月30日（日）午後1時30分から午後4時まで

会場：伊東市役所（2階会議室・地下会議室の2会場にて開催）

参加者：35名（一般19名、高校生6名、中学生10名）

内容：開会・挨拶

近年の図書館の動向の紹介

ワークショップの説明

6グループに分かれてのグループワーク

①「現図書館のよいところ、改善点を考える」

②「新しく図書館に望むことを考える」

グループワーク発表

閉会・アンケート記入

(2) 結果

現図書館の「よいところ」としては、読み聞かせやぬいぐるみおとまり会など、児童サービスが充実していること、伊東市に関する郷土資料が充実していることなどが挙げられました。

「改善が必要なところ」としては、駐車場の使いにくさやバリアフリーへの対応など、施設面での意見が多いほか、電子図書館やセルフ貸出機などのICT関連の未整備や情報発信の不足、市内全域への図書館サービスの提供が不十分といった意見も見られ、その他中高生に対してのサービス・設備の不足についての意見や、若年層からは「静かにしていないといけない雰囲気がある」などの意見が寄せられました。

また、「新しく図書館に望むことを考える」では、地域資料、漫画資料、視聴覚資料など各種資料の充実を望む意見のほか、ICT関連の充実など設備に関する意見が挙がりました。施設面では、遊具なども含めた子どもが遊べるスペース、中高生のための勉強スペース等、各世代のニーズに応じた諸室を始め、くつろいだり自由に過ごせたりする様々な閲覧環境を望む声や、カフェを始めとした併設施設について様々なアイデアが寄

せられたほか、伊東市ゆかりの人物に関するコーナーや観光にまつわるコーナー等、伊東市の魅力を発信するサービスに関する意見も見られました。

4-1-2 第2回市民ワークショップ

(1) 概要

令和2年10月に開催した第2回市民ワークショップでは、新図書館を自分の活動拠点と捉えた「わたしの〇〇拠点でしたいこと、必要なものを考えよう」をテーマとした意見交換を行い、一人一人が考える「拠点」の役割と、その拠点で「具体的にしたいこと」、それを実施するために「必要な諸室やスペース」について議論しました。

伊東市新図書館基本構想策定に向けた市民ワークショップ（第2回）の概要

開催日時：令和2年10月18日（日）午後1時30分から午後4時まで

会場：伊東市役所（8階会議室）

参加者：34名（一般19名、高校生6名、中学生9名）

内容：第1回ワークショップ・第2回基本構想策定委員会の振り返り

ワークショップの説明

6グループに分かれてのグループワーク

「わたしの〇〇拠点でしたいこと、必要なものを考えよう」

グループワーク発表

閉会・アンケート記入

(2) 結果

第2回市民ワークショップにおいて、全般的な傾向としては、静かな読書スペースや郷土資料関連の図書館本来のスペースに加え、活動や交流、創作、くつろぎ、出会いといった、新図書館を街の活動拠点と捉えたスペースについての意見が多く寄せられました。

4-1-3 第3回市民ワークショップ

(1) 概要

令和2年12月に開催を予定していた第3回市民ワークショップは、新型コロナウイルス感染症の影響により、書面での開催となりました。第3回では、「2回のワークショップを終えて」と「新図書館を拠点とした市全体のサービス網を考えよう」の2つをテーマとして意見を伺いました。

2回のワークショップを終え、その中で補足や特に強調したい点について自由形式で意見を募ったほか、伊東市の略地図を用いて市内にある様々な施設との連携サービスや、電子書籍の導入・拡充といった、施設に限定されないサービスも含めた市全体のサービス網に関する意見を募りました。

伊東市新図書館基本構想策定に向けた市民ワークショップ（第3回）の概要

<書面にて実施>

回収期間：令和2年12月14日（月）から12月24日（木）まで

回答者：30名（一般15名、高校生6名、中学生9名）

内容：①「2回のワークショップを終えて」
②「新図書館を拠点とした市全体のサービス網を考えよう」

(2) 結果

これまでの意見に加え、更に強調したい点としては、「静」と「動」のスペース分け、参考書や問題集を設置した集中できる学習室、Wi-Fiの設備環境、障がいを持った方に対する配慮が行き届いた施設であることなどの意見が挙がりました。

「市全体のサービス網を考えよう」では、市内各施設への返却ポストや、サテライト図書館の設置といった意見が多数寄せられ、その他にも移動図書館の拡充、民間図書館やカフェ等の商店との連携、屋外型イベント等の実施、シャトルバスの運行等が挙がりました。また、施設に限定されないサービスとしては、電子図書館、地域資料のデジタル化、SNSやアプリの活用による情報発信等の意見が挙がりました。

4-2 小学生ふるさと教室

令和2年9月19日（土）に、小学生ふるさと教室の特別講座として、伊東の「未来を拓く」新しい図書館をつくろう小学生ワークショップを開催し、新図書館建設に向け、多くの意見が寄せられました。

市内の小学6年生18名が3グループに分かれ、現図書館等の施設見学、最新の図書館の紹介を受けたあと、「現図書館のよいところ、悪いところ」「これからの図書館に必要なもの」というテーマでグループワークを行いました。グループワークでは、高校生リーダーがファシリテーターを務め、小学生がそれぞれの意見を付箋に書き、発表を行いました。

現図書館の「よいところ」として、「子ども向けの本が充実している」「読み聞かせをやっている」など児童サービスが充実していることなどが挙げられました。「悪いところ」としては、「書架の間が狭い。書架が高い」やバリアフリーへの対応、老朽化に関する内容など施設面での意見が多く寄せられました。

また、「これからの図書館に必要なもの」では、漫画、ライトノベル等若者向けの資料の充実のほか、ゲームの貸出しなど新たなサービスを望む意見も挙がりました。施設面では、映画館、ボルダリング、スケボーパーク、ボーリング場、展望台等、併設施設に関するユニークな意見が多数挙がりました。

5 コンセプト、機能・サービス、蔵書目標の検討

5-1 拡充が必要な機能・サービス内容の検討

5-1-1 これまでの意見と拡充が必要な機能・サービス

これまで開催された「図書館・文化ホール建設に向けた検討会」「地域タウンミーティング」「未来ビジョン会議」「ワークショップ」における意見を踏まえ、新図書館で拡充が必要な機能について、次の7つへと分類し、整理します。

- ① 交流機能：
カフェなどくつろぎながら多世代が交流できる機能
- ② 一般コーナー機能：
幅広く大人向けの図書を集めたいいわゆる図書館の核となる機能
- ③ 伊東市情報センター機能：
郷土資料や観光情報、地域の特色が分かる伊東ならではの資料を集めた機能
- ④ 児童コーナー機能：
数多くの児童書や絵本を集め、子どもたちやその親が楽しく過ごせる機能
- ⑤ ティーンズコーナー機能：
中高生が来たくなるようなスペースや資料を集めた機能
- ⑥ 生涯学習センター機能：
これまでの生涯学習センター機能に加え、様々な活動を行える機能
- ⑦ ICT機能：
ICTタグシステムや電子図書館、最新のICTを活用した情報発信などの機能

また、7つの機能に加え、新図書館を拠点とした市全体のサービスを併せて検討します。

以下にこれまでの意見と7つの機能の対応表（表 5-1～表 5-5）及び第3回ワークショップで伺った市全体のサービス網（表 5-6）について掲載します。

表 5-1 図書館・文化ホール建設に向けた検討会、地域タウンミーティング、未来ビジョン会議における
意見（抜粋）

項目	内容	拡充が必要なサービスまたは諸室	7つの機能への対応
コンセプト	読書をしなくても誰もが行ってみたいと思う図書館	カフェやショップなど	①交流機能
	全世代が交流できる図書館	交流スペース	①交流機能
	自然・郷土の文化財・温泉	地域資料・参考資料スペース、展示コーナー（郷土資料）	③伊東市情報センター機能
	子育て充実な図書館	余裕のある児童コーナー	④児童コーナー機能
	生活向上や文化発展に結びつく、情報センターや学習の場にすべき	地域資料・参考資料スペース、展示コーナー（郷土資料）	③伊東市情報センター機能
	国際観光温泉文化都市にふさわしい図書館	地域資料・参考資料スペース、展示コーナー（郷土資料）	③伊東市情報センター機能
	花と海という湯のまち伊東がイメージできる図書館	地域資料・参考資料スペース、展示コーナー（郷土資料）	③伊東市情報センター機能
	伊東というまちの生い立ち、歴史が理解できる図書館	地域資料・参考資料スペース、展示コーナー（郷土資料）	③伊東市情報センター機能
サービス	中学・高校・大学と進学しても使いやすいと思える機能を	グループ学習室、ファブスペース、ティーンエイジスペース、音楽スタジオ等	⑤ティーンズコーナー機能 ⑥生涯学習センター機能
	貸出し等に係る電子化を	ＩＣ機器の導入	⑦ＩＣＴ機能
施設備	全体的にゆとりのある空間	ゆったりとした空間づくり	全般
	ミニシアターの併設	小規模ホール	⑥生涯学習センター機能
	広い学習室	学習室、グループ学習室	②一般コーナー機能 ⑤ティーンズコーナー機能
	電子図書館	電子図書館	⑦ＩＣＴ機能
併設施設	ギャラリー	展示コーナー	①交流機能 ③伊東市情報センター機能
	カフェなどの飲食スペース	カフェ	①交流機能
	託児コーナー	託児コーナー	④児童コーナー機能
	庭を設け、四季折々の花、花木が楽しめる	広場	①交流機能
	ジオ資料館、伊東にゆかりのある伊東祐親、三浦按針、文人墨客等について学べる施設	地域資料・参考資料スペース、展示コーナー（郷土資料）	③伊東市情報センター機能
	観光客が伊東を理解できる伊東学コーナー	地域資料・参考資料スペース、展示コーナー（郷土資料）	③伊東市情報センター機能
	シェアオフィス	コワーキングスペース、ファブスペース	⑥生涯学習センター機能

表 5-2 第1回策定委員会で整理された内容

項目	内容	拡充が必要なサービスまたは諸室	7つの機能への対応
資料	利用の少ない、中高生を対象とした蔵書の収集拡充を検討する必要があります。	ティーンエイジスペース	⑤ティーンズコーナー機能
	木下空太郎関連書籍、温泉にまつわる書籍等、現在収められているもののほか、伊東市の文化・歴史に関する書籍を収集しています。今後は伊東市の文化・歴史・観光等更に内容を深めた特色ある蔵書とサービスの拡充とデジタル技術等も利用し、多くの方々に活用される方策の検討が望まれます。	地域資料・参考資料スペース、展示コーナー（郷土資料）	③伊東市情報センター機能 ⑦ICT機能
	伊東市の昔話、伊東の民話集など地域に伝わる伝承についての独自資料（手作りのものも含む）も多数そろえられており、これらは地域における知や文化を収集する図書館の本来の意義から考えても非常に価値のあるものであるため、このような資料の拡充あるいは利活用（下記、ICTも活用した）が望まれます。	地域資料・参考資料スペース、展示コーナー（郷土資料）	③伊東市情報センター機能 ④児童コーナー機能 ⑦ICT機能
サービス	利用の少ない中高生に魅力を感じてもらえる事業の検討が望まれます。	グループ学習室、ファブスペース、ティーンエイジスペース、音楽スタジオ等	⑤ティーンズコーナー機能 ⑥生涯学習センター機能
	伊東市の歴史、文化などの魅力発信について、更なる拡充を図るサービスの検討が望まれます。（文化財管理センターとの住み分けも検討）	地域資料・参考資料スペース、展示コーナー（郷土資料）	③伊東市情報センター機能
	子どもたちが伊東市を知るきっかけになる、伊東市の自然・文化等を次世代に引き継ぐ郷土教育の場	地域資料・参考資料スペース、展示コーナー（郷土資料）、児童スペース	③伊東市情報センター機能 ④児童コーナー機能
	映画会や大規模イベント等の事業開催の拡充と、そのためのスペースの確保が必要と考えます。	小規模ホール	①交流機能 ⑥生涯学習センター機能
	これまで図書館に訪れなかった方々の来館を促すために交流スペース（カフェ等）等の設置を検討する必要があります。	カフェやショップなど	①交流機能
	伊東市総合計画『健康保養都市』を支援するサービスも検討する必要があります。	医療健康情報コーナーなど	②一般コーナー機能 ③伊東市情報センター機能
	生涯学習センターで行われている講座等の拡充	諸室の拡充等	⑥生涯学習センター機能
	生涯学習センターと図書館の連携による相乗効果のある事業展開	生涯学習センターと図書館機能の融合	⑥生涯学習センター機能 ⑦ICT機能
ICT	託児サービスなど、子どもと保護者が過ごしやすく、読書習慣を育むことができる図書館	託児サービス、児童スペース	④児童コーナー機能
	生涯学習センター機能との融合化や回遊性を考えた場合、ICTタグシステムの導入による資料管理が大きな効果を発揮すると考えられ、導入の検討が望まれます。	生涯学習センターと図書館機能の融合、ICT機器の導入	⑥生涯学習センター機能 ⑦ICT機能
	予約の半数以上がWeb上からの申込みであることから、ICTを活用した更なる利便性向上策の検討が必要であると考えられます。	ICT機器の導入	⑦ICT機能
施設・設備	その他、デジタルアーカイブ導入による貴重資料の公開や観光情報の発信、ファブスペースの設置等々が検討されます。	デジタルアーカイブ、ファブスペース	③伊東市情報センター機能 ⑦ICT機能
	現状の施設は入口が暗く、分かりにくく、生涯学習センターの入口とも別れているため、お互いの利用者が分離してしまいます。開かれていて入りやすく、かつ、様々な方が訪れやすい施設とすることが望まれます。	交流スペース、生涯学習センターと図書館機能の融合	全般 ①交流機能 ⑥生涯学習センター機能
	閲覧室には25席+αの学習席がありますが、曜日時間帯によっては学生たちで満席となります。このような利用も踏まえた学習席の拡充が望まれます。	学習室の拡充、グループ学習室	②一般コーナー機能 ⑤ティーンズコーナー機能等
	生涯学習センターと融合し、回遊性が実現される施設であることが望まれます。	生涯学習センターと図書館機能の融合、ICT機器の導入	⑥生涯学習センター機能 ⑦ICT機能
	エントランス部分などに、人々が憩い、集まるためのラウンジ機能のあるスペースが望まれます。	交流スペース	①交流機能
その他	津波浸水想定区域、洪水浸水想定区域のため、防災と利用のしやすさを兼ねた設計が望まれます。	災害対応に即した設計	全般
	サテライト図書館等、伊東市全域の図書館サービスも併せて検討することが望まれます。	サテライト図書館、移動図書館	全般
その他	新型コロナウイルス感染症の流行に伴い、現図書館等でも一部サービスの制限を行ったことから、滞りなく市民へ図書館サービスを提供し続けるため、電子書籍の貸出やデジタルアーカイブといった非来館型のサービスを導入・提供し、来館・非来館のどちらでサービスを受けるか利用者が選択できるようにすることが望まれます。	デジタルアーカイブ、電子図書館	⑦ICT機能

表 5-3 小学生ふるさと教室特別講座 小学生ワークショップにおける意見（抜粋）

<現図書館のよいところ、悪いところ> よいところ=●、悪いところ=▲

大項目	小項目	参加者から挙げられた意見（抜粋）	拡充が必要なサービスまたは諸室	7つの機能への対応	
資料	全般	● 本が多い。本の種類が多い。	資料の充実	②一般コーナー機能等	
		● いろんなジャンルの本がある。	資料の充実	②一般コーナー機能等	
		● いろんなCDやDVDがある。	資料の充実（視聴覚）	②一般コーナー機能等	
		● 新聞を読める。	資料の充実（新聞）	②一般コーナー機能等	
		▲ 新しい本が少ない、本が古い。	資料の充実	②一般コーナー機能等	
		▲ 借りられる辞書が少ない。	資料の充実	②一般コーナー機能等	
		▲ 連載ものが最後まで無い。	資料の充実	②一般コーナー機能等	
		▲ CD・DVDが少ない。	資料の充実（視聴覚）	②一般コーナー機能等	
		▲ 雑誌の種類が少ない。	資料の充実（雑誌）	②一般コーナー機能等	
	郷土	● 昔の本や郷土の本が多くある。	地域資料・参考資料スペース、展示コーナー（郷土資料）、情報発信機能	③伊東市情報センター機能	
	児童	● 小さい子の本が多い。	キッズスペース	④児童コーナー機能	
		● 子ども向けの本が充実している。	キッズスペース	④児童コーナー機能	
		▲ 子ども向けの小説が少ない。	キッズスペース	④児童コーナー機能	
	中高生	● YAコーナーがある。	ティーンズコーナー	⑤ティーンズコーナー機能	
		▲ 漫画が少ない。	児童コーナー、ティーンズコーナー	④児童コーナー機能 ⑤ティーンズコーナー機能	
▲ 若い人向けの本が少ない。		児童コーナー、ティーンズコーナー	④児童コーナー機能 ⑤ティーンズコーナー機能		
配架方法	● 本が探しやすい。本が分別されている。	分かりやすい配架計画	②一般コーナー機能等		
	▲ 本の場所が分かりにくい。	分かりやすい配架計画	②一般コーナー機能等		
サービス	全般	▲ ユーチューブを見たい。	児童コーナー、ティーンズコーナー	④児童コーナー機能 ⑤ティーンズコーナー機能 ⑦ICT機能	
	児童	● ともだち号がある。移動図書館が良い。	移動図書館	④児童コーナー機能	
	中高生	▲ ゲームが無い。ゲームの貸し借りができない。	児童コーナー、ティーンズコーナー	④児童コーナー機能 ⑤ティーンズコーナー機能	
行事・イベント	全般	▲ もっと図書館等で連携したイベントを増やす。	各種事業の拡大	①交流機能 ⑥生涯学習センター機能	
	児童	● 読み聞かせをやっている。 ● 児童の読み聞かせ	児童コーナー、キッズスペース 児童コーナー、キッズスペース	④児童コーナー機能 ④児童コーナー機能	
ICT	ICT	● 検索機がある。子どもと大人と2台ある。	検索機の増設	⑦ICT機能	
		▲ ネット環境が無い。	ICTの活用	⑦ICT機能	
		▲ PCスペースが無い。	PCスペース	⑦ICT機能	
施設・設備	全般	● 読むスペースや勉強するスペースがある。	閲覧席、自習席等の拡充	④児童コーナー機能 ⑤ティーンズコーナー機能	
		● 静か（集中できる）	静と動の空間のゾーニング	②一般コーナー機能等	
		● 落ち着くにおい。雰囲気	静と動の空間のゾーニング	②一般コーナー機能等	
		● 静かな雰囲気	静と動の空間のゾーニング	②一般コーナー機能等	
		● 外見が良い。	魅力のある設計	全般	
		▲ 飲食禁止	飲食スペース	①交流機能	
		▲ 書架の間が狭い。書架が高い。	開放的な空間、低書架の採用	②一般コーナー機能等	
		▲ 読書スペース・閲覧スペースが少ない。	閲覧席、自習席等の拡充	④児童コーナー機能 ⑤ティーンズコーナー機能	
		▲ なごめない。	くつろぎのスペース	①交流機能等	
		▲ ゆっくりできない。	くつろぎのスペース	①交流機能等	
		▲ 交流スペースがほしい。	交流スペース	①交流機能	
		▲ アニメ鑑賞室があると良い。	視聴覚室	④児童コーナー機能	
		▲ 静かすぎ	静と動の空間のゾーニング	④児童コーナー機能	
		▲ 暗い、怖い。あたたかみが無い。	魅力のある設計	全般	
		▲ 老朽化している。	魅力のある設計	全般	
		▲ 狭いので密になりやすい。	ゆったりとした空間づくり	全般	
		郷土	▲ 郷土資料の場所が分かりにくい。	地域資料・参考資料スペース、展示コーナー（郷土資料）、情報発信機能	③伊東市情報センター機能
		児童	● 子ども用のスペースがある。	キッズスペース	④児童コーナー機能
	● 読み聞かせのエリアがある。		キッズスペース	④児童コーナー機能	
	▲ ともだち号の車庫が狭くてかわいそう。		移動図書館車	④児童コーナー機能	
	▲ 遊べるスペースが無い。		キッズスペース	④児童コーナー機能	
	バリアフリー	● 高齢者でも使いやすくなっている。	バリアフリーへの対応	全般	
		▲ エレベーターが狭い・暗い。	バリアフリーへの対応	全般	
		▲ エスカレーターがほしい。	バリアフリーへの対応	全般	
		▲ トイレが少ない。	バリアフリーへの対応	全般	
	駐車場	▲ 駐車場が狭い。	駐車場	全般	

<これからの図書館に必要なもの>

大項目	小項目	参加者から挙げられた意見（抜粋）	拡充が必要なサービスまたは諸室	7つの機能への対応	
資料	全般	新しい本を多く	資料の充実	②一般コーナー機能等	
		書籍の増加。新刊の充実	資料の充実	②一般コーナー機能等	
		ミステリー小説・漫画がほしい。	資料の充実	②一般コーナー機能等	
		歴史の本をもっと多く	資料の充実	②一般コーナー機能等	
		蔵書を100万冊へ増やす。	資料の充実	②一般コーナー機能等	
		雑誌を多く置いてほしい。	資料の充実	②一般コーナー機能等	
		日本・海外のCD・DVDがほしい。	資料の充実（視聴覚）	②一般コーナー機能等	
	新聞を全種類。新聞を借りられるように	資料の充実（新聞）	②一般コーナー機能等		
中高生	幅広いアニメ・漫画がほしい。	児童コーナー、ティーンズコーナー	④児童コーナー機能 ⑤ティーンズコーナー機能		
	ライトノベル	児童コーナー、ティーンズコーナー	④児童コーナー機能 ⑤ティーンズコーナー機能		
サービス	全般	音楽が流れている環境。場内BGM	くつろぎのスペース	全般	
		高齢者のために宅配サービス	宅配サービス等	全般	
	児童	ともだち号の増加	移動図書館	④児童コーナー機能	
	中高生	ゲームソフトの貸出し	児童コーナー、ティーンズコーナー	④児童コーナー機能 ⑤ティーンズコーナー機能	
行事・イベント	全般	月1回のイベント実施	各種事業の拡大	①交流機能 ⑥生涯学習センター機能	
ICT	ICT	検索機を増やす。	検索機の増設	⑦ICT機能	
		検索機を増やす。自動貸出機	検索機の増設、自動貸出機の導入	⑦ICT機能	
		Wi-Fi環境	Wi-Fiの整備	⑦ICT機能	
		タブレットPC・タッチパネルの設置	電子機器の導入	⑦ICT機能	
施設・設備	全般	CD室がほしい。	視聴ブースの整備	②一般コーナー機能等	
		DVDを見れるスペース	視聴ブースの整備	②一般コーナー機能等	
		テレビを見れるように！ユーチューブを見れるスペース	視聴ブースの整備	②一般コーナー機能等	
		イベントを実施できるスペース	イベントスペース、生涯学習センターと図書館機能の融合	①交流機能 ⑥生涯学習センター機能等	
		貸切できるフロアがほしい。	イベントスペース、生涯学習センターと図書館機能の融合	①交流機能 ⑥生涯学習センター機能等	
		閲覧席の増加。調べる部屋を増やす。	閲覧席の増設	②一般コーナー機能等	
		楽器を演奏するスペース	音楽スタジオ	⑤ティーンズコーナー機能 ⑥生涯学習センター機能	
		大型ソファなどでくつろげるスペース	くつろぎのスペース	①交流機能等	
		セグウェイで館内を移動	娯楽設備、バリアフリーへの対応	全般	
		静かなエリアとにぎやかなエリアを分ける。	静と動の空間のゾーニング	②一般コーナー機能等	
		本棚を低くして本を取りやすいように	適切な配架計画	全般	
		裸足で歩ける空間。土足厳禁エリアの設置	土足禁止エリア	①交流機能 ④児童コーナー機能	
		ペットも入れる場所	広場等ペット可能エリアの検討	①交流機能	
		開放的な空間（天井を高く）	魅力のある設計	全般	
		春夏秋冬、装いを変える図書館（冬はこたつなど）	魅力のある設計	全般	
		ハンモック・リラックスできるスペース	魅力のある設計	全般	
		床はカーペットにしてほしい。	魅力のある設計	全般	
		見た目をカッコよく	魅力のある設計	全般	
		オシャレな図書館、明るい雰囲気	魅力のある設計	全般	
		解放感のある空間	魅力のある設計	全般	
		天井を高く。照明を明るく。清潔な環境を保つ。	魅力のある設計	全般	
		入口を広くして入りやすく	魅力のある設計	全般	
		大きく、広くしてほしい	魅力のある設計	全般	
		ツリーハウスや木のぬくもりがある図書館	魅力のある設計	全般	
		完全年代別スペースの設置	目的別に合わせた空間のゾーニング	全般	
		コロナ対策をして、安心して過ごせる場所にしたい	感染症予防の徹底、電子図書館などによる非来館サービス	全般 ⑦ICT機能	
		児童	小さい子供が遊べるスペースをもっと設ける	キッズスペース	④児童コーナー機能
		中高生	集中できる学習室。学習ルーム	学習室	⑤ティーンズコーナー機能等
		バリアフリー	館内の案内図を分かりやすく	バリアフリーへの対応	全般
			バリアフリーの充実。エスカレーターやスロープ	バリアフリーへの対応	全般
	トイレをかわいくしてほしい！		バリアフリーへの対応	全般	
	エレベーターを増やす。		バリアフリーへの対応	全般	
	駐車場	駐車場を広く！	駐車場	全般	
	災害対応	災害に強く	災害対応に即した設計	全般	
	併設施設	併設施設	飲食OKエリア	飲食可能スペース	①交流機能
			映画館の併設	映画館	①交流機能
			屋上のスペース・公園・木・観葉植物	屋上スペースの活用	①交流機能
			サウナ・温泉	温泉施設	①交流機能
			温泉やホテル機能の併設	温泉施設、娯楽施設	①交流機能
			カフェや飲食できるお店がほしい。	カフェ	①交流機能
ブリクラなど、若い人が来るように			娯楽施設	①交流機能	
屋上からのバンジージャンプ			娯楽施設	①交流機能	
グッズや物の販売			ショップ	①交流機能	
雑貨・洋服・文房具の販売			ショップ	①交流機能	
本を買うエリアもほしい。			書店	①交流機能	
絵本・書籍の売り場			書店	①交流機能	
ボルダリング図書館			スポーツ施設	①交流機能	
遊ぶスペース（卓球・アスレチック・ボードゲーム）			スポーツ施設	①交流機能	
スポーツをするエリア			スポーツ施設	①交流機能 ⑥生涯学習センター機能	
トレーニングルーム、ジム、プールの併設			スポーツ施設	①交流機能 ⑥生涯学習センター機能	
動物園・スケボーパーク・ボウリング場・ゲームセンター・屋内運動場			スポーツ施設、娯楽施設	①交流機能	
テラスの設置。屋外でも本が読める。			テラス	①交流機能	
海が見える展望台			展望台、屋上スペースの活用	①交流機能	
庭・芝がほしい			広場	①交流機能	
フォトスポット			フォトスポット、情報センター機能	①交流機能 ③伊東市情報センター機能	
泊まれる施設があるとよい（避難所）。			避難場所、災害対応に即した設計	全般	

表 5-4 新図書館基本構想策定に向けた市民ワークショップ（第1回）における意見（抜粋）

<現図書館のよいところ、改善が必要なところ> よいところ=●、改善が必要なところ=▲

大項目	小項目	参加者から挙げられた意見（抜粋）	拡充が必要なサービスまたは諸室	7つの機能への対応
資料	郷土	●伊東の歴史が分かる資料がまとめてあり、地元愛が感じられる。	地域資料・参考資料スペース、展示コーナー（郷土資料）、情報発信機能	③伊東市情報センター機能
		●郷土資料が沢山ある。	地域資料・参考資料スペース、展示コーナー（郷土資料）、情報発信機能	③伊東市情報センター機能
		▲郷土資料が一部しか置いていない。	地域資料・参考資料スペース、展示コーナー（郷土資料）、情報発信機能	③伊東市情報センター機能
		▲ジオパーク資料が少ない。	地域資料・参考資料スペース、展示コーナー（郷土資料）、情報発信機能	③伊東市情報センター機能
	児童	●絵本がある。	キッズスペース	④児童コーナー機能
		●民話紙芝居を所蔵している。	地域資料・参考資料スペース、展示コーナー（郷土資料）、情報発信機能	③伊東市情報センター機能 ④児童コーナー機能等
	配架方法	▲必要な本を探しにくい、場所が分かりづらい。	分かりやすい配架計画	②一般コーナー機能等
		▲棚に詰め込みすぎて取りにくい。	分かりやすい配架計画	②一般コーナー機能等
	展示	●子ども向けの特別展がある。	キッズスペース、展示コーナー	④児童コーナー機能
		●小規模な展示（古い絵本展）が面白かった。	展示コーナー	②一般コーナー機能 ④児童コーナー機能 ⑤生涯学習センター機能等
▲植物や魚を学べる展示を設けてほしい。		参考資料コーナー	②一般コーナー機能 ⑥生涯学習センター機能等	
サービス	児童	●移動図書館「ともだち号」がある。	サテライト図書館、移動図書館	④児童コーナー機能
		●小さい子どもに親しまれており、利用しやすい。	キッズスペース	④児童コーナー機能
		▲児童図書館の認知度が低い。	キッズスペース、情報発信機能	④児童コーナー機能
		▲ゲーム等体験できるものを置いてほしい。	児童コーナー、ティーンズコーナー	④児童コーナー機能 ⑤ティーンズコーナー機能等
	中高生	▲青年層の利用が少ない。	ティーンズコーナー、情報発信機能	⑤ティーンズコーナー機能
		▲若者利用増加サービスが必要	ティーンズコーナー、情報発信機能	⑤ティーンズコーナー機能
	情報発信	▲伊東の魅力を発信してほしい。	地域資料・参考資料スペース、展示コーナー（郷土資料）、情報発信機能	③伊東市情報センター機能 ⑦ICT機能等
		▲図書館でどんな活動をしているのか分からない。	情報発信機能の拡大	⑦ICT機能等
		▲何の行事をやっているのか分かりにくいので、参加機会が得にくい。	情報発信機能の拡大	⑦ICT機能等
		▲知らないサービスがあった。	情報発信機能の拡大	⑦ICT機能等
行事・イベント	全般	●年に数回市民向けの講座をやっている。	生涯学習センターと図書館機能の融合、各種事業の拡大	②一般コーナー機能 ⑥生涯学習センター機能等
		●図書館主催で勉強会が開催されている。	生涯学習センターと図書館機能の融合、各種事業の拡大	②一般コーナー機能 ⑥生涯学習センター機能等
		▲イベントができる図書館だとよい。	生涯学習センターと図書館機能の融合	②一般コーナー機能 ⑥生涯学習センター機能等
	児童	●子ども向けのイベントがある。	児童コーナー、キッズスペース	④児童コーナー機能
		●出張読み聞かせを含む読み聞かせイベントがちゃんと開催されている。	児童コーナー、キッズスペース	④児童コーナー機能
●ぬいぐるみお泊まりイベントがある。	児童コーナー、キッズスペース	④児童コーナー機能		
中高生	▲中高生向けのイベントが少ない。	各種事業の拡大	⑤ティーンズコーナー機能	
ICT	ICT	●図書検索システムを使うことで本を探しやすい。	検索機の増設	②一般コーナー機能等
		▲電子書籍の導入をしてほしい。	電子図書館の導入	⑦ICT機能等
		▲無人図書館で貸出、返却が可能にできるようにしてほしい。	電子図書館の導入	⑦ICT機能等
		▲置いてある本が分かるアプリを作してほしい。	アプリの開発	⑦ICT機能等
		▲図書検索システムが2台しか無いので、検索用のパソコンを増やす。	検索機の増設	②一般コーナー機能等
		▲自動貸出返却を置いてほしい。	自動貸出機、自動返却機の導入	⑦ICT機能等
		▲Wi-Fiが使用できない。	Wi-Fiの導入	⑦ICT機能等
施設・設備	全般	●展示コーナーがある。	展示コーナー	②一般コーナー機能 ③伊東市情報センター機能等
		●静かで集中ができる。	静と動の空間のゾーニング	②一般コーナー機能等
		●机が多い。	学習席等閲覧席	②一般コーナー機能等
		▲会話できるスペースが無い。	会話可能なスペース	①交流機能
		▲教え合いスペースが無い。	生涯学習センターと図書館機能の融合	①交流機能 ②一般コーナー機能 ⑥生涯学習センター機能
		▲コミュニケーションが取りづらい。	交流機能、各種事業の拡大	①交流機能
		▲飲食しながら勉強できるスペースが無い。	飲食スペース	①交流機能
		▲用途によって部屋を分けられていない（静か/ガヤガヤ）。	静と動の空間のゾーニング	全般
		▲本を読むスペースも含め、個々のスペースが狭い。	閲覧席、自習席等の拡充	①交流機能 ②一般コーナー機能等
		▲机が古くガタつく。	使いやすい仕様の選定	全般
		▲座席の多様性が低い。	多様な閲覧環境	②一般コーナー機能等
		▲本棚が高いため取りづらく、空間的に狭く感じるので、本棚を低く見渡しを良くしてほしい。	低書架の採用	②一般コーナー機能等
		▲静かすぎず入りづらい。	静と動の空間のゾーニング	①交流機能等
		▲全体的に暗い所が多い（勉強スペースや特に入口部分）。	適切な照明計画等	①交流機能 ②一般コーナー機能等
		▲くつろげない。	くつろぎのスペース	①交流機能等
		▲子どもたちがおしゃべりしていると注意されてしまう、大人もゆっくり本を読むスペースが無い、など長時間過ごせる環境ではない。	静と動の空間のゾーニング	④児童コーナー機能等
		▲現代らしさがなく、楽しい施設ではない。	魅力ある設計	全般
		▲自販機や飲食スペースが無い。	自動販売機、飲食スペース	①交流機能
		▲監視カメラが無い。	監視カメラの導入	⑦ICT機能等
		郷土	●郷土資料室がある。	地域資料・参考資料スペース、展示コーナー（郷土資料）
	●昔話や地元の研究資料個室がある。	地域資料・参考資料スペース、展示コーナー（郷土資料）	③伊東市情報センター機能	
	児童	●絵本等をその場で読むことができるスペースがある。	キッズスペース	④児童コーナー機能
	▲子どもが声を出せない。	キッズスペース、静と動の空間のゾーニング	④児童コーナー機能	
	中高生	▲自習スペースが少ない。	学習席、自習室	②一般コーナー機能 ⑤ティーンズコーナー機能等
		▲学習しやすい環境では無い。	学習席、自習室	②一般コーナー機能 ⑤ティーンズコーナー機能等
	バリアフリー	▲バリアフリーを充実させる。	バリアフリーへの対応	全般
		▲ハンディキャップの利用者の使いやすさを追求するべき	バリアフリーへの対応	全般
	駐車場	▲駐車場が少なく、狭いので駐車しづらい。	駐車場	全般
災害対応	▲地震・津波対策に備えるようにする。	災害対応に即した設計	全般	
	▲災害時にも利用できるようにする。	災害対応に即した設計	全般	
立地等	▲本館を利用できない住民のために分館を作る必要がある。	サテライト図書館、移動図書館	全般	
	▲伊豆高原の駅にサテライト図書館をつくってほしい。	サテライト図書館、移動図書館	全般	
併設施設	併設施設	▲有機野菜を使ったメニュー等のある、カフェがほしい。	カフェ	①交流機能

<新しく図書館に望むこと>

大項目	小項目	参加者から挙げられた意見（抜粋）	拡充が必要なサービスまたは諸室	7つの機能への対応
資料	郷土	観光情報、歴史、伊東市にゆかりのある人など含めて幅広い地域資料がそろって、伊東に関することなら何でも分かる図書館	地域資料・参考資料スペース、展示コーナー（郷土資料）、情報発信機能	③伊東市情報センター機能
		郷土や関係する人達（木下圭太郎、太田園三）の紹介コーナーを置く。	地域資料・参考資料スペース、展示コーナー（郷土資料）、情報発信機能	③伊東市情報センター機能
		伊東に関係する本の英語版を置く。	地域資料・参考資料スペース、展示コーナー（郷土資料）、情報発信機能	③伊東市情報センター機能
		伊東が出てくる映画を全て用意する。	地域資料・参考資料スペース、展示コーナー（郷土資料）、視聴覚資料	③伊東市情報センター機能
		伊豆の魚や植物を紹介したコーナーを設ける。	地域資料・参考資料スペース、展示コーナー（郷土資料）	③伊東市情報センター機能
	中高生	最新の雑誌や漫画やライトノベルを増やす。	ティーンズコーナー、ティーンズ雑誌コーナー	⑤ティーンズコーナー機能
		中高生の勉強にあった資料を置く。	ティーンズコーナー	⑤ティーンズコーナー機能
		漫画も借りられるようにする。	ティーンズコーナー	⑤ティーンズコーナー機能
		雑誌の種類（ジャンプ・アニメとか）を増やす。	ティーンズコーナー、ティーンズ雑誌コーナー	⑤ティーンズコーナー機能
	展示	展示できる場所を設ける。	展示コーナー	①交流機能 ②一般コーナー機能等
サービス	全般	宅配やBOX等、本を返却するサービスをする。	拡張性のあるサービス	全般 ⑦ICT機能等
		スマホと連携させる。	アプリ等拡張サービス	⑦ICT機能等
		東伊豆で県立図書館の次レベルの図書館にする。	情報センター機能	全般 ③伊東市情報センター機能等
		多様性に合ったサービスをする。	バリアフリーへの対応等	全般
		文化施設の拠点となるような図書館にする。	伊東市情報センター機能	③伊東市情報センター機能等
		子どもや高齢者が訪れやすい場所にする。	児童コーナー、一般コーナー、各種事業の拡大	②一般コーナー機能 ④児童コーナー機能等
		予約受取専用の本の無い図書館を作る。	サテライト図書館	全般 ⑦ICT機能等
	郷土	伊東の文化を発信する。	地域資料・参考資料スペース、展示コーナー（郷土資料）、情報発信機能	③伊東市情報センター機能 ⑦ICT機能等
		観光客同士が交流（情報交換）できる。	観光情報コーナー、情報発信	①交流機能 ③伊東市情報センター機能等
		市内観光名所をジオラマで紹介する。	地域資料・参考資料スペース、展示コーナー（郷土資料）、情報発信機能	③伊東市情報センター機能等
	情報発信	パンフレットで情報発信をする。	情報発信機能	①交流機能 ⑦ICT機能等
		若者はSNSで、高齢者は新聞で情報発信をする。	情報発信機能	⑦ICT機能等
	行事・イベント	全般	語りや昔話を聞くイベントを開催する。	各種事業の拡大
リーディングイベントを開催する。			各種事業の拡大	②一般コーナー機能 ④児童コーナー機能 ⑥生涯学習センター機能等
本好きが集まるコミュニティ（子どもから大人まで気軽に本が好きの人が集まれる場）を設ける。			コミュニティ醸成に寄与する各種事業の拡大	①交流機能 ②一般コーナー機能等
児童		子どもや中学生も含めたイベントを開催する。	各種事業の拡大	④児童コーナー機能 ⑤ティーンズコーナー機能
ICT	ICT	電子書籍の導入・拡充をする。	電子図書館、電子書籍	⑦ICT機能等
		Wi-Fiが使用でき、タブレットの貸出ができる。	Wi-Fiの導入	⑦ICT機能等
		電子機器（タブレット）を増やし、使えるようにする。	電子機器の導入	⑦ICT機能等
		資料の電子化や郷土資料のデジタル化を図る。	地域資料・参考資料スペース、展示コーナー（郷土資料）、デジタルアーカイブ	③伊東市情報センター機能 ⑦ICT機能等
		調べものができるようにPCの設置をする。	レファレンスコーナー、データベース用PC等	②一般コーナー機能 ③伊東市情報センター機能等
		図書通帳の機械化をする。	図書通帳の導入	⑦ICT機能等
		自動貸出機、検索機を置く。	自動貸出機、検索機	⑦ICT機能等
施設・設備	全般	フリースペースを設置する。	フリースペース	①交流機能等
		持込のPCが使えるなど、テレワークに使えるスペースを作る。	コワーキングスペース	②一般コーナー機能 ⑥生涯学習センター機能
		グループ利用のできる個室スペースを作る。	グループ学習室	①交流機能 ⑤ティーンズコーナー機能等
		工作・調理等、体験スペースを作る。	工作室、調理室等	⑤ティーンズコーナー機能 ⑥生涯学習センター機能等
		寝られたり、くつろげるスペース（マット、ソファ、じゅうたん）を作る。	目的別に合わせた空間のゾーニング	全般
		開放的＆閉鎖的空間で分ける。	静と動の空間のゾーニング	全般
		年齢区別と融合、目的に合ったゾーニングができていない場所にする。	目的別に合わせた空間のゾーニング	全般
		クッションを設置して寝ながらでも本を読めるようにする。	目的別に合わせた空間のゾーニング	全般
		出会いがあったり、偶然性のある場所にする。	コミュニティ醸成に寄与する各種事業の拡大、フリースペース	①交流機能 ⑥生涯学習センター機能等
		年配者と子どもの接点を作る。	児童コーナー、一般コーナー、各種事業の拡大	①交流機能 ②一般コーナー機能 ④児童コーナー機能等
		ユーザーウェルカム感を持たせる。	各種事業の拡大	①交流機能等
		イスの種類を増やす。	目的別に合わせた空間のゾーニング	全般
		低い本棚を置く。	開放的な空間	全般
		コンセントを用意する。	閲覧席の多様化（電源席）	②一般コーナー機能 ⑤ティーンズコーナー機能
		屋上・庭園（テラス）・展望台がある。	屋上スペースの活用	①交流機能等
		児童	大声を出せたり、子どもたちが伸び伸びと触れ合える場所にする。	キッズスペース、静と動の空間のゾーニング
	小さい子の遊びまわられるスペースを作る。		キッズスペース、静と動の空間のゾーニング	④児童コーナー機能
	中高生	自習室を作る。	自習室	⑤ティーンズコーナー機能等
		ボードゲームができるスペースを作る。	ティーンズコーナー、ゲームコーナー	⑤ティーンズコーナー機能等
		勉強をするところを作る。	自習室、学習室	⑤ティーンズコーナー機能等
	バリアフリー	バリアフリーを有する。	バリアフリーに配慮した施設計画	全般
		表示や案内、英語で表記をしたりする。	バリアフリーに配慮した施設計画	全般
		様々な年代の方や障がい者への配慮をする。	バリアフリーに配慮した施設計画	全般
駐車場	使いやすい駐車場にする。	駐車場	全般	
立地等	市内各所にお取り置き場所を設ける。	サテライト図書館	全般	
	伊豆高原駅に分館を作る。	サテライト図書館	全般	
併設施設	併設施設	カフェ（ゴンチャ、スタバ、ネットカフェ、地元を紹介した日替わりカフェなど）を作る。	カフェ	①交流機能等
		地域のを販売した雑貨店などのお店を入れる。	ショップ	①交流機能等
		温泉を利用したコミュニティスペースを作る。	温泉	①交流機能等
		ジム、卓球台などを動かせるコーナーを作る。	体育室等	①交流機能 ⑤ティーンズコーナー機能等
		子どもを預ける場を設ける。	託児サービス	①交流機能 ④児童コーナー機能等
		ペット連れの利用客のために、ペット広場を作る。	広場	①交流機能等
		書店・カフェ併設にして、休日も返却できるようにする。	書店、ショップ	①交流機能等

表 5-5 新図書館基本構想策定に向けた市民ワークショップ（第2回）における意見（抜粋）

<わたしの〇〇拠点でいたいこと、必要なものを考えよう>

参加者から挙げられた意見	拠点に必要なスペース	7つの機能への対応
一般A：気軽さ・くつろぎ・暇つぶし拠点	庭、テラス、カフェ	①交流機能
一般B：（静かな空間・読書・学習）・くつろぎ拠点	ソファ・クッションスペース（＝ラウンジスペース）、足湯	①交流機能
高校生：自由・癒し・リラックス拠点	ソファ・クッションスペース、プラネタリウム、足湯、カフェ	①交流機能
中学生A：息抜き・癒し・くつろぎ拠点	ソファ・クッションスペース、屋上、ペットスペース	①交流機能
中学生B：くつろぎ拠点	ソファ・クッションスペース、売店、カフェ	①交流機能
一般B：語学・国際交流拠点	国際交流スペース	①交流機能
一般C：高齢者や乳幼児の保護者にやさしく、相談・くつろぎ拠点	電子書籍コーナー、保健室、足湯、相談コーナー	①交流機能 ②一般コーナー機能 ⑦ICT機能
一般A：新たなアイデアや考えにふれる・宝探し・発信拠点	特徴的なレイアウト、情報発信交流スペース	①交流機能 ②一般コーナー機能 ③伊東市情報センター機能
一般B：わくわく・出会い拠点	特徴的なレイアウト、カフェ	①交流機能 ②一般コーナー機能
一般A：集中・勉強・仕事拠点	個室、ワーキングルーム（＝コワーキングスペース）	②一般コーナー機能
一般B：静かな空間・読書・学習・くつろぎ拠点	個室	②一般コーナー機能
一般C：郷土について知る・古文書を読む拠点	郷土資料コーナー、博物館スペース	③伊東市情報センター機能
一般B：語り・昔話・民話・大人も読み聞かせ拠点	大人向けの声を出して良いエリア	③伊東市情報センター機能
一般A：仕事と子育て・子育てコミュニティ拠点	キッズスペース、読み聞かせ、保育室、児童遊具	④児童コーナー機能
高校生：子どもエリア	託児所、遊べるスペース	④児童コーナー機能
一般C：展示・図書館教育拠点	特徴的な児童書架、多目的スペース	④児童コーナー機能
高校生：勉強・学習・仕事拠点	個室、グループ学習室	⑤ティーンズコーナー機能
中学生A：勉強・自主学習・学び拠点	個室、参考書	⑤ティーンズコーナー機能
中学生B：プライベート・学習拠点	個室	⑤ティーンズコーナー機能
中学生B：学び拠点	フリースペース、グループ学習室、郷土資料	⑤ティーンズコーナー機能 ③伊東市情報センター機能
高校生：娯楽・楽しめる拠点	ボードゲーム、娯楽室	⑤ティーンズコーナー機能
中学生A：他校生徒との交流・コミュニティ・遊び拠点	ゲームコーナー、ショップ、映画館	⑤ティーンズコーナー機能
中学生A：運動拠点	テニスコート、バスケットゴール	⑤ティーンズコーナー機能
中学生B：運動・遊び拠点	体育館、プレイルーム	⑤ティーンズコーナー機能
一般A：趣味・活動・交流拠点	ワークショップスペース、交流エリア	⑥生涯学習センター機能
一般B：デジタル・IT・創作・発信拠点	画像編集ソフトなどを備えたPC室、印刷室	⑥生涯学習センター機能
一般B：アート・デザイン・絵本・創作拠点	アートコーナー、交流スペース、ギャラリー	⑥生涯学習センター機能
一般C：知識を磨き、深める・文化的活動・情報収集拠点	ギャラリー、PC室、小規模ステージ付屋外広場	⑥生涯学習センター機能
一般B：音楽活動の拠点	視聴覚コーナー、音楽スタジオ、ミニコンサートホール	⑥生涯学習センター機能
一般C：防災・安心安全・夜間の居場所拠点	備蓄庫、衛生的な部屋	防災
高校生：安全拠点	備蓄庫	防災
一般B：まちづくり		市域全般サービス
一般C：市内民間図書館との連携・サテライト・アクセスの向上		市域全般サービス ⑦ICT機能
中学生A：どこにいても借りられる	ともだち号車庫、シャトルバス停車場	市域全般サービス ⑦ICT機能
中学生B：アクセスの向上	シャトルバス停車場	市域全般サービス

※一般A、一般B、一般C、高校生、中学生A、中学生Bはワークショップ時のグループ名を表す

表 5-6 新図書館基本構想策定に向けた市民ワークショップ（第3回）における意見（抜粋）

<新図書館を拠点とした市全体のサービス網を考えよう> 複数意見=太字

大項目	小項目	参加者から挙げられた意見
市内各施設でのサテライトサービス	返却ポスト	アピタ など大型商業施設や コミュニティセンター 、 鉄道駅 、 小・中学校 や 高校 、市役所の出先機関などに 返却ポスト を設置する。 小学生が学校の帰りに立ち寄れるように、八幡野のコミュニティセンターに返却ポストを設置する。 市役所の出先機関や返却ポストのある場所で 予約資料の受取り ができる。
	出張所・コミュニティセンター	出張所や コミュニティセンター で 予約資料の受取りと返却 ができる。
		出張所（公民館）での本の貸出と返却の際に、本館と連携した端末を導入する。
		コミュニティセンターに中央図書館の出張棚を設置し、各区の図書担当者を図書館司書がコンサルとして支援する。読み聞かせなどの出張イベントも開催する。
		本、ボードゲームをコミュニティセンターに取り寄せて使用できる（貸出は本のみ）。
		コミュニティセンターで古本を回収し、リサイクル・再利用する。
	サテライト図書館	伊豆高原駅にサテライト図書館 を設置する。ギャラリーも併設して巡回展を実施する。
		伊豆高原エリアにミニ図書館を作り、子連れと高齢者の交流機会を提供する。
		富戸、八幡野、池などの遠方のコミュニティセンターにミニ図書館を設置し、新刊書やおすすめ本の紹介、図書館の本の画像を使った予約、イベントの予約などの機能を付加する。
		既存の公民館・コミュニティセンターにサテライト形式の無人図書館を設置する。
アウトリーチサービス	郵送サービス	郵送で本を借りられるサービスを提供する。
	電話・メールサービス	電話でのレファレンスサービスを提供する。メール対応できるとなお良い。
	出張イベント	アピタなどで世代別（子連れ、学生、若者、主婦、シニアなど）のイベントを開催する。
		中央会館以外の各コミセンでもおはなし会や図書館マナーのオリエンテーリングを開催する。
		小・中学校で読み聞かせをする。
	出張貸出・展示等	返却よりも貸出や目に触れる場所での本の提供に力を入れる。
		市内各小中学校に読書感想文の課題図書を貸出する。
		老人ホームに本の注文書や購入書を置く。
		アピタに小さい子どもが絵本を読めるようなスペースを作り、本棚を設置する。
		マリントウンの2階の食事スペースや道の駅に 伊東市の歴史が分かる本・冊子を置く 。
市内各施設での情報発信	各駅や学校、 コミセン 、アピタ、いろいろなお店などに ポスター を掲示したりガイドブックを置いたりする。	
	駅などの公共施設に図書館の情報を掲示する。	
	各鉄道駅に伊東の情報（市の取組、各施設の運営時間、イベント）を調べられるタッチパネルを設置する。	
	移動図書館	宇佐美中学校などの 学校 や公園を 移動図書館 で巡回する。 移動図書館の日程表を今より見やすい場所に貼る。 十足、赤沢の方も移動図書館で巡回する。 移動図書館の巡回場所をもう少し増やす。 ともだち号で予約本の受取りや返却ができる。本館と連携した端末を導入する。 コミュニティセンターへの移動図書館の巡回を継続する。
地域連携サービス	屋外イベント・フリーマーケット	移動図書館車の稼働の無い時に、市内イベントへ出向く。
		小室山で本フェスを開催する。ともだち号が2台～3台あればジャンルに分けて勢揃いさせる。
		もっと一般の人に知ってもらうため、屋外でのイベントを開催する。（例）本好きの人の知識のフリーマーケット（テーマに沿った劇やおすすめ本の展示、屋台などもあると良い）。
		公園の敷地内にあることを活かして、大原図書館で本のフリーマーケットを開催する。もっとたくさんの人と本との出会いの拠点として、読まなくなった本を誰かに引き継いでもらえるといい。
	図書館で作った本の展示即売イベント・フリマを開催する。ギャラリーでの展示企画も良い。	
書店・カフェ	市内書店と連携し、講演会やワークショップなどのイベント時に書籍の販売を行う。	
	図書館で見た本が地域の書店で買いやすくなる取組をする。（例）図書館で書店注文に必要な情報を打ち出せる/図書館近くに数店合同の出張店を出す/書店との合同イベントを開催する	

大項目	小項目	参加者から挙げられた意見
地域連携サービス	書店・カフェ	図書館は児童図書、地域文化図書や学術書などを中心に提供し、雑誌や一般的な娯楽図書などの提供は税制緩和などを通じて周囲に書店やカフェを誘致して対応する。図書の貸出・返却などでも連携して地域の活性化を図る。
		一碧湖のカフェに出張本棚を設置する。
		福祉センターのカフェの席を増やし、スタッフも増員する。お弁当を図書館でも売る。
	民間図書館	癒しのライブラリー等の私設図書館の出張棚を中央図書館やギャラリーなどに設置する。短期でも面白い。
		伊東市内で『まちライブラリー』として登録されている「癒しと憩いのライブラリー」、「まちライブラリー@伊豆高原ゆらら」、「まちライブラリー@Izu Grace Salon」及び民間図書館の「沙羅の木文庫」、「壺中天の本と珈琲」と連携する。
		「癒しと憩いのライブラリー」及び「沙羅の木文庫」の蔵書データと市立図書館の蔵書データを共有し、市立図書館の資料は予約すれば各図書館で貸出・返却できるようにする。
	記念館・道の駅等	空太郎の資料（原画等）を図書館でも展示する。
東海館と連携する。		
マリントウンのトレーニング室と新図書館のトレーニング室を連携して、どのくらい運動しているのか把握できるアプリ、カードを作る。		
ボランティア	高齢者のサークルなどから本の修復作業のボランティアを募る。	
セヘ新の図書強化	バス・停留所	アピタを始め、色々な場所から シャトルバスを出す 。
		施設のすぐ側に「図書館前」等の バスの停留所を設ける 。
		巡回バスを設ける。
駐車場	街歩きにも対応した駐車場を設ける。	
遠隔ICT活用によるサービス	資料の電子化・音声配信	電子書籍を導入・拡充し 、図書館の端末や自宅から利用できるようにする。
		伊東に関する本をデータ化し、小・中学校での地元研究で使用しやすいようにする。
		視覚障害の人も本が楽しめるように本の内容を音声配信する。
	インターネット等を通じた情報発信	インターネットなどで図書館の情報を発信する 。図書館にどんな本があるのか、どこにあるのか、貸出しているのかなどを一覧で見られるようにしてほしい。
		生涯学習センターで行われているイベントなどがネットで確認でき、予約ができる。
		お知らせや新しい本、貸出情報、人気の本情報などの 図書館情報を発信するアプリを提供する 。
		SNSや新聞で新着本などをお知らせする。
蔵書検索	イベント予告や新着本の紹介、本の貸出状況がわかるLINEの公式アカウントを作成する。本の名前をコメントすると、チャットボットで今あるか教えてくれる機能を提供する。	
	SNSやアプリなどで移動図書館の様子を配信し、どんな本がどんなところへ行くか市民に伝える。	
	市内保育園・幼稚園・小学校・中学校・高校の図書室及び各コミセン図書室の蔵書検索ができるようにする。民間図書館も含め、伊東市内の全ての蔵書を検索可能にする。	
その他	その他	伊東市の現在の統計資料、サービス内容蔵書の検索、各地域の移動図書館の日程などを情報発信する。新しい情報に加えて簡単な読書感想（利用者から投稿を募って掲載）も提供する。
		新図書館の拡張による増員を補うために自動化を推進する。
		利用者が貸してほしい本を定期的に募集し、図書館に蔵書する。
		中学生は本離れの年齢であると同時に、自己確立の時でもあるため、中学生活に不可欠な本やアイデンティティーの確立・身体能力の発揮に役立つ本等を多く読んでもらう機会を提供する。電子書籍化されていない本を読んでほしい。引きこもりを防ぐためにも、特別な場所で本を読む経験をしてほしい。
		伊東は観光が盛んであることを活かして図書館離れ対策に取り組む。
		レファレンス（学習など）、児童・青少年、閲覧・貸出・リクエスト、障害者・高齢者・多文化、雑誌・地域資料・パンフレット・チラシなどを充実させる。
		誰かが輝ける場所作り、行く度に図書館があって良かったと思う場所作りをしてほしい。
		城ヶ崎海岸などの海岸沿いに綺麗な景色を見ながら本を読める施設をつくる。
		スーパー/観光案内所/チケット・情報センター/飲食店（子連れ・ママ会OK）/本をテーマにした居酒屋/カフェ兼洋書店/児童書専門店/古書店/浮世絵の店/貸しギャラリー・画廊/市内書店の出張店舗/ボードゲーム・カードゲームショップ/子ども向けの文具・キャラクターグッズ店/子どもの英会話教室等があると嬉しい。
		大原児童図書館をつい最近まで知らず、まだ行ったことがない。

5-1-2 7つの拡充機能・サービス案

「5-1-1 これまでの意見と拡充が必要な機能・サービス」で分類した7つの機能について、各機能のイメージを以下に示します。

(1) 交流機能（案）

多世代が集い・交流するエリアとし、誰もが入りやすい雰囲気の施設の顔となる場所です。カフェ等も設置し、公園のように気軽に施設に訪れることで、本や活動との偶然の出会いを誘発する、市民の共有ラウンジのようなスペースとします。

(2) 一般コーナー機能（案）

一般コーナーは、図書館本来の市民の知と情報の集積地として機能します。

多くの開架図書と、大人がゆっくりとくつろぎながら読書ができる閲覧スペースや学習室、静かに読書ができる静寂のエリアなどから構成されます。

総合計画にある「健康保養都市」というテーマから、医療健康情報コーナーも検討します。

(3) 伊東市情報センター機能（案）

伊東市情報センターは、木下杢太郎を始め伊東祐親、三浦按針、種田山頭火、中村敬宇、川端康成、彫刻家の重岡建治など、伊東市にゆかりのある人物の関連資料や、温泉やジオパークにまつわる資料等、伊東市の特徴的な歴史や文化を知ることができる郷土資料を公開し、貴重書や歴史的造形物の展示のほか、様々な情報を搭載したデジタルアーカイブ及びタブレットPCなどを配置した情報発信スペース、資料展示スペースから構成します。

専門的なレファレンスにも対応し、市民が調べものをしたりするほか、観光客がここに来れば伊東市の全てを知ることができます。

(4) 児童コーナー機能（案）

児童コーナーは、面白みのある形状の書架なども取り入れ、子どもたちが自ら本に触れる機会を創出し、楽しみながら伊東市の歴史、文化に触れ、その後の読書習慣の獲得につながるサービスを提供します。

また、一時託児サービスなどを検討することで、乳幼児を抱えた方々もゆっくりと本を選んだり、図書館イベントに参加できたりするようになり、保護者にとっても図書館が身近なものとなります。

(5) ティーンズコーナー機能（案）

中高生の心理に鑑み、児童コーナーとは明確にゾーニング分けをし、かつ、子どもっぽくないしつらえとします。

参考書等学習を助ける資料のほか、ライトノベルや漫画、ティーンズ誌、アニメ・アート・ファッション関係等も含む資料を配架します。また、従来の図書資料だけでなく、ゲーム等幅広いメディアの資料の収集も検討します。

そのほか大学のラーニングコモンズのような、複数人で話しながら調べものや学習ができるグループ学習室等を備え、図書館から足が遠のきがちな中高生が図書館に来たくなる内容とします。

(6) 生涯学習センター機能（案）

生涯学習センターは、これまでの生涯学習機能に加え、コワーキングスペース、ファブスペースといった多様な目的にあわせた利用、あるいは青少年向けの音楽スタジオなど、市民が創作活動を行う場として機能します。

伊東市ならではの様々な活動や、作品が生まれる知のクリエイティブコーナーとなりうる場です。

(7) ICT機能（案）

ICタグシステムによる管理を行い、セルフ貸出機、セルフ返却機（返却仕分け機）、セルフ予約受取棚を導入します。それにより貸出・返却業務の完全セルフ化が図られ、利用者の利便性向上と、防犯対策の向上、及び運営コストの削減が図られるだけでなく、新型コロナウイルス感染症なども踏まえた人との接触機会の抑制を実現します。

また、電子図書館の導入や、貴重資料や地域資料のデジタルアーカイブ化を含めたデジタルサービスを充実させることにより、来館が困難な方へのサービス提供や、図書館が一時的に閉館したとしても市民がサービスを楽しむことができる仕組みを構築します。

5-1-3 市全体の図書館サービス（案）

新図書館における7つの機能に加え、市内全域で図書館サービスを提供するため、新図書館を拠点とした新たな図書館サービス網の構築も必要となります。下記にそのサービス網イメージを記載します。

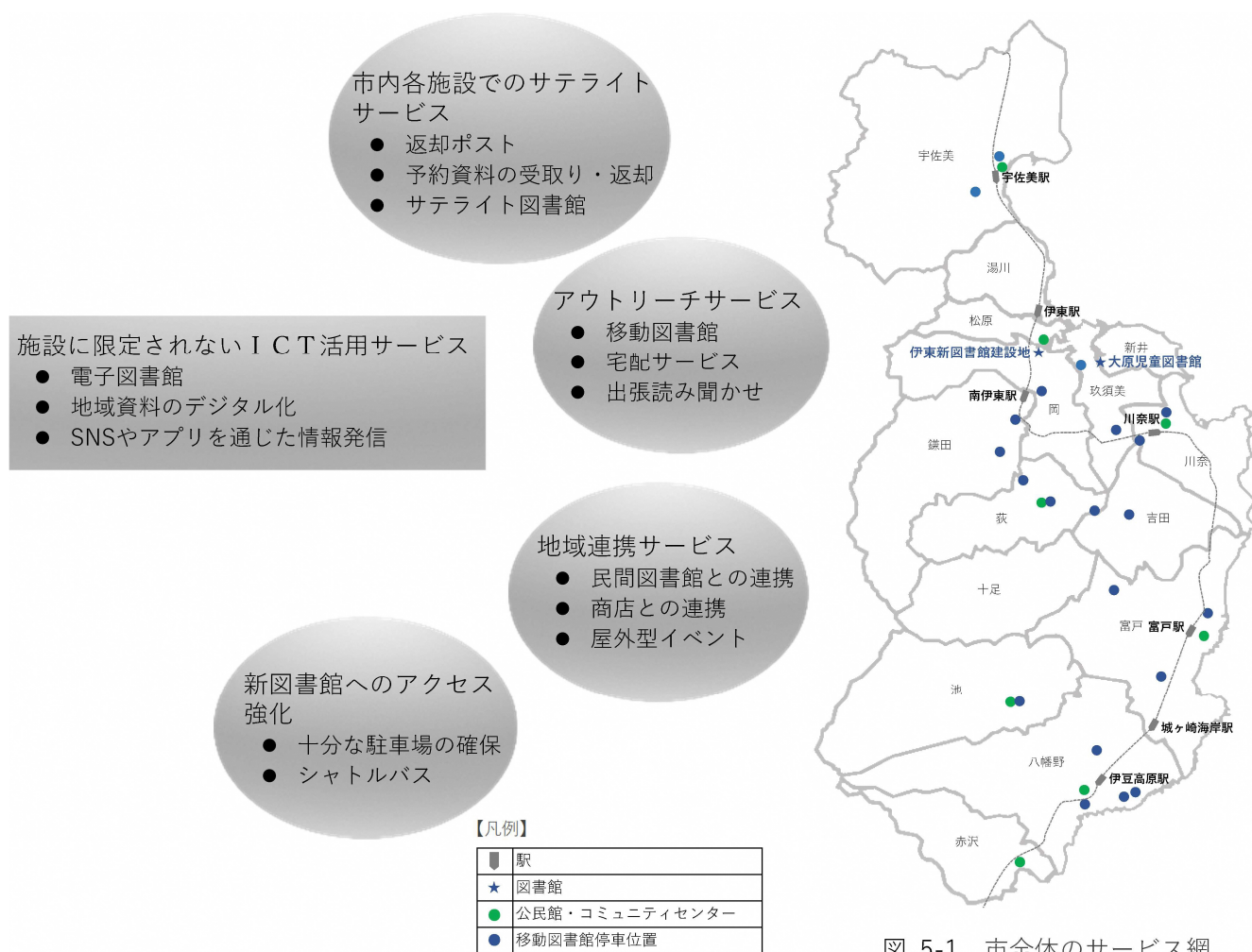


図 5-1 市全体のサービス網

(1) 市内各施設でのサテライトサービス（案）

市内の生涯学習センター、コミュニティセンター、あるいは商業施設や駅等に返却ポストや、予約資料の受取り・返却を行えるサービスコーナー機能を設置することで利便性の向上が図られます。特に南部エリアの伊豆高原駅周辺は、人口密度が高いものの、新図書館のある中心市街地への交通の便が良いわけでは無いため、サテライト図書館の設置も今後検討します。

(2) アウトリーチサービス（案）

移動図書館のステーション拡充、巡回時の予約資料の受取り及び資料の返却や、新図書館への来館が困難な利用者に向けた本の宅配サービス、市内各種施設への出張読み聞かせなどのアウトリーチサービスを検討します。

(3) 地域連携サービス（案）

市内には活発に活動する民間図書館等も点在しており、そのような施設と連携したサービスのほか、カフェ等の商店との連携を検討します。

(4) 新図書館へのアクセス強化（案）

市内及び市外からも訪れやすい十分な駐車場の確保や、シャトルバスなどの運行を検討することで、市内全域からのアクセスを強化します。

(5) ICT活用による遠隔地へのサービス（案）

「5-1-2 7つの拡充機能・サービス案 (7) ICT機能（案）」でも記載した電子図書館やデジタルアーカイブの導入による非来館サービスにより、来館が困難な利用者へのサービス提供を実現します。特にデジタルアーカイブ導入によって実現される伊東市ならではの地域資料のデジタル化は、GIGAスクール構想と連携した市内小中学校の授業などでの利用も期待されます。

あわせてSNSやアプリ等を活用した情報発信等により、市内全域から図書館の情報にアクセス可能な環境が実現されます。

5-2 伊東市新図書館コンセプト

新図書館は、市内全域から来館してもらえよう、「5-1-2 7つの拡充機能・サービス案」に記載の各種サービス案と「5-1-3 市全体の図書館サービス（案）」を踏まえ、伊東市の知と文化を支える情報集約・発信基地として、それに相応しい資料と規模を持たせるとともに、併設される生涯学習センターとの相乗効果を生む利活用により、利用者に愛され、伊東市の情報が全て分かり、幅広い世代が学ぶことができる施設を実現する必要があります。

欧米では、旅行者はそのまちの図書館を訪れば、観光、情報、歴史が全て分かるとされています。「国際観光温泉文化都市」伊東市の新図書館についても、欧米の図書館のような使われ方を目指す中で、このような利用方法にも対応できる機能も期待されます。

また、市内にお住まいの方も、市外にお住まいの方も、気軽に訪れることができ、生涯にわたる学びや活動に参加することで、学ぶ喜びや豊かさを享受できる、～ひとりひとりの創造拠点～として位置付けるとともに、伊東市の未来を担う子どもたちが、世界に羽ばたき、活躍できるよう、また、今を担う大人たちが、培ってきた経験や知を発展・発揮できるよう、さらには、それらが交わり補完しあいながら、自身の夢と未来を育むための学びの場となる必要があると思われまます。

このような理由から、新図書館は

『夢と未来を育む図書館』～ひとりひとりの創造拠点～

をコンセプトとし、日本全国あるいは海外から多くの人々が訪れる「国際観光温泉文化都市」伊東市の知・文化・歴史を収集記録し、内外に発信し続けることで、シビックプライドの醸成と文化や知の発展に寄与する事はもちろん、本市の未来を担うひとりひとりが夢を育み、未来を育む事ができるような創造拠点として、「この図書館があるから伊東市に行ってみたい、住んでみたい、住んでいたい」と思えるような図書館を目指します。

5-3 蔵書目標の設定

5-3-1 目標蔵書冊数の設定

これまで検討してきた様々な活動を支えるためにも資料の拡充が必要です。また、同規模自治体図書館の平均蔵書数は約 27 万冊（開架約 13 万冊、閉架約 14 万冊）ですが、望ましい基準においては、人口 6 万 5,000 人相当*の本市は、約 31.6 万冊（人口 6 万人：開架約 20.4 万冊、閉架約 11.2 万冊）から約 38.2 万冊（人口 8 万人：開架約 24.8 万冊、閉架約 13.4 万冊）の間に位置しています。

そこで 38.2 万冊と 31.6 万冊の差分を四分割し、人口 6 万 5,000 人相当*に換算した **33.3 万冊程度**を新図書館の蔵書目標とします。なお、これまでいただいた御意見を踏まえ、電子書籍の整備も見据えています。

※令和元年度の人口減少数を基に毎年 500 人減と想定した場合の令和 7 年度の推定値

5-3-2 児童書割合の設定

同規模自治体（7 万人前後）の児童書割合の調査結果から、蔵書冊数における児童書の割合は **25%程度**とし、蔵書冊数 33.3 万冊に対し、83,250 冊を目標値とします。

表 5-7 同規模自治体の児童書割合

都道府県名	図書館名	蔵書冊数 (冊)	児童書冊数 (冊)	児童書割合
静岡県	伊東市立伊東図書館	184,728	45,517	24.6%
愛知県	碧南市民図書館	425,922	91,434	21.5%
埼玉県	吉川市立図書館	423,078	97,322	23.0%
埼玉県	鶴ヶ島市立中央図書館	366,657	80,327	21.9%
福井県	鯖江市図書館	340,499	74,731	21.9%
千葉県	八街市立図書館	315,996	60,496	19.1%
長野県	伊那市立伊那図書館	306,257	100,139	32.7%
愛知県	豊明市立図書館	275,506	102,820	37.3%
福岡県	太宰府市民図書館	221,785	54,300	24.5%
愛知県	知立市図書館	218,920	55,243	25.2%
北海道	恵庭市立図書館	211,041	41,845	19.8%
山梨県	笛吹市石和図書館	152,462	50,491	33.1%
大阪府	柏原市立柏原図書館	132,541	14,899	11.2%
宮城県	栗原市立図書館	125,749	36,621	29.1%
平均		270,493	66,205	24.5%

※日本図書館協会出版「日本の図書館 2018」を基に作成

5-3-3 閉架の割合の設定

移動図書館専用資料や学校支援用資料を保管するためのストックヤード機能も必要であることから、閉架書庫を設置します。閉架の割合は、表 2-13 同規模自治体図書館との比較、閉架率の平均から **50%程度**を目安とします。

6 施設面積の検証と機能配置案の検討

6-1 施設面積の検証

6-1-1 3パターンの面積表

「2-2 図書館の設置及び運営上の望ましい基準及び同規模自治体等との比較」に記載のとおり、同規模自治体の図書館平均延床面積は2,794 m²、望ましい基準では4,097 m²です。この数値を踏まえ、3,000 m²～4,000 m²程度を図書館部分の面積目標とします。これに加え、生涯学習センター中央会館部分並びに策定委員会、市民ワークショップ、タウンミーティング及び未来ビジョン会議等において意見が出されたこれまでに無かったその他機能を整理しながら盛り込んでいくことで全体の面積目標を検証します。

その結果、①これまで様々な検討段階で意見として出された新たな機能を全て入れ込んだ場合は7,500 m²、②新たな機能について、機能的に近いスペースや、生涯学習センタースペースと融合を図った場合は6,000 m²となります。さらに、②を基に③各スペースを多目的に活用した場合5,000 m²程度でも機能的には実現できることが分かります。

① 新たな機能を全て入れ込んだ案 7,500 m²

従来の図書館、生涯学習センターには無かった、ラウンジスペース、キッズスペース、ワークショップスペース、ギャラリー、プレイルーム、足湯、ペットスペース、プラネタリウム、映画館、体育館、博物館スペース、印刷等創作室、PC創作ルーム、備蓄庫といった市民ワークショップ等で出された必要とされるスペースを全て盛り込んだ案です。

② 図書館・生涯学習センター機能と新たな機能を融合した案 6,000 m²

市民ワークショップ等で出された必要とされるスペースについて、従来の図書館及び生涯学習センター機能と用途が重なるものは統合し、また屋外に設置することが可能なものは、屋外での今後の検討事項とした案です。

③ 各スペースを多目的に活用した案 5,000 m²

②の検討に加え、更に運用方法を精査し、各スペースを多目的に活用することで、最小限のスペースとした場合の案です。

表 6-1 3 パターンの諸室想定面積表

1. 新たな機能を全て入れ込んだ案			2. 図書館・生涯学習センター機能と新たな機能を融合した案			3. 各スペースを多目的に活用した案		
①一般図書コーナー			①一般図書コーナー			①一般図書コーナー		
一般、ティーンエイジ、地域・参考資料	105,000	冊	一般、ティーンエイジ、地域・参考資料	105,000	冊	一般、ティーンエイジ、地域・参考資料	102,000	冊
学習室、グループ学習室	105	席	学習室、グループ学習室	105	席	学習室、グループ学習室	105	席
各コーナー閲覧席、ブラウジングスペース等	210	席	各コーナー閲覧席、ブラウジングスペース等	210	席	各コーナー閲覧席、ブラウジングスペース等	190	席
視聴覚資料、新聞・雑誌コーナー、展示コーナー、対面朗読室、予約本コーナーなど			視聴覚資料、新聞・雑誌コーナー、展示コーナー、対面朗読室、予約本コーナーなど			視聴覚資料、新聞・雑誌コーナー、展示コーナー、対面朗読室、予約本コーナーなど		
合計冊数	105,000	冊	合計冊数	105,000	冊	合計冊数	102,000	冊
合計面積	1,800	㎡	合計面積	1,800	㎡	合計面積	1,600	㎡
②児童図書コーナー			②児童図書コーナー			②児童図書コーナー		
児童開架	58,000	冊	児童開架	58,000	冊	児童開架	58,000	冊
視聴覚資料等			視聴覚資料等			視聴覚資料等		
おはなし室	40	人	おはなし室	40	人	おはなし室	20	人
託児スペース	15	人	託児スペース	15	人	託児スペース	15	人
閲覧席	60	席	各コーナー閲覧席	60	席	各コーナー閲覧席	60	席
合計冊数	58,000	冊	合計冊数	58,000	冊	合計冊数	58,000	冊
合計面積	850	㎡	合計面積	850	㎡	合計面積	800	㎡
③バックスペース			③バックスペース			③バックスペース		
事務室、会議室、休憩スペース、ロッカー	40	人	事務室、会議室、休憩スペース、ロッカー	40	人	事務室、会議室、休憩スペース、ロッカー	30	人
閉架書庫、作業スペース	170,000	冊	閉架書庫、作業スペース	170,000	冊	閉架書庫、作業スペース	173,000	冊
移動図書館車駐車場・倉庫			移動図書館車駐車場・倉庫			移動図書館車駐車場・倉庫		
合計冊数	170,000	冊	合計冊数	170,000	冊	合計冊数	173,000	冊
合計面積	1,350	㎡	合計面積	1,350	㎡	合計面積	1,200	㎡
④生涯学習センター			④生涯学習センター			④生涯学習センター		
小ホール（現視聴覚室）、ホール控室	200	席	小ホール（現視聴覚室）、ホール控室	150	席	小ホール（現視聴覚室）、ホール控室	80	席
第1多目的室（現第1会議室）	100	席	第1多目的室（現第1会議室）	100	席	第1多目的室（現第1会議室）	100	席
第2多目的室（現第2会議室）	30	席	第2多目的室（現第2会議室）	30	席	第2多目的室（現第2会議室）	30	席
第3多目的室（現第1研修室）	30	席	第3多目的室（現第1研修室）	30	席	第3多目的室（現第1研修室）	20	席
第4多目的室（現第2研修室）	30	席	第4多目的室（現第2研修室）	20	席	第4多目的室（現第2研修室）	20	席
第1和室	30	席	第1和室	30	席	第1和室	30	席
第2和室	30	席	第2和室（⇒無し）	0	席	第2和室（⇒無し）	0	席
美術工芸室	60	席	美術工芸室	60	席	美術工芸室	60	席
展示兼トレーニング室	50	人	展示兼トレーニング室	50	人	展示兼トレーニング室	50	人
合計面積	1,550	㎡	合計面積	1,300	㎡	合計面積	1,000	㎡
⑤新たな機能			⑤新たな機能			⑤新たな機能		
カフェ・ショップ			カフェ・ショップ			カフェ・ショップ		
音楽スタジオ			音楽スタジオ			音楽スタジオ		
印刷等創作室（ファブスペース）			印刷等創作室（ファブスペース）			印刷等創作室（ファブスペース）（⇒美術工芸室に統合）		
PC創作ルーム			PC創作ルーム			PC創作ルーム（⇒美術工芸室に統合）		
キッチンスペース			キッチンスペース（⇒無し）			キッチンスペース（⇒無し）		
コワーキングスペース			コワーキングスペース（⇒閲覧スペースに統合）			コワーキングスペース（⇒閲覧スペースに統合）		
ラウンジスペース			ラウンジスペース（⇒ブラウジングスペースに統合）			ラウンジスペース（⇒ブラウジングスペースに統合）		
キッズスペース			キッズスペース（⇒屋外遊具と合わせ検討）			キッズスペース（⇒屋外遊具と合わせ検討）		
ワークショップスペース			ワークショップスペース（⇒多目的室に統合）			ワークショップスペース（⇒多目的室に統合）		
ギャラリー			ギャラリー			ギャラリー		
ブレイルーム			ブレイルーム			ブレイルーム		
足湯コーナー			足湯コーナー（⇒屋外施設として検討）			足湯コーナー（⇒屋外施設として検討）		
ベツスペース			ベツスペース（⇒屋外施設として検討）			ベツスペース（⇒屋外施設として検討）		
プラネタリウム			プラネタリウム（⇒小ホールに統合）			プラネタリウム（⇒小ホールに統合）		
映画館			映画館（⇒小ホールに統合）			映画館（⇒小ホールに統合）		
体育館			体育館（⇒屋外施設として検討）			体育館（⇒屋外施設として検討）		
博物館			博物館スペース（ギャラリー等に統合）			博物館スペース（ギャラリー等に統合）		
備蓄庫			備蓄庫			備蓄庫		
合計面積	1,950	㎡	合計面積	700	㎡	合計面積	400	㎡
⑥全体			⑥全体			⑥全体		
開架合計	163,000	冊	開架合計	163,000	冊	開架合計	160,000	冊
閉架合計	170,000	冊	閉架合計	170,000	冊	閉架合計	173,000	冊
総合計冊数	333,000	冊	総合計冊数	333,000	冊	総合計冊数	333,000	冊
総合計面積	7,500	㎡	総合計面積	6,000	㎡	総合計面積	5,000	㎡

6-1-2 3 パターンのメリット・デメリット

更に検討の参考として、前項の3パターンのメリット、デメリットを検証します。

- ① 新たな機能を全て入れ込んだ案は、延床面積が3パターンのうち最も大きくなります。スペースをそれぞれ独立して積み上げているため、図書館スペース、生涯学習センタースペース、新たなスペースの融合性は低くなり、また今後の建設工事費や維持管理費用は最も大きくなることが想定されます。
- ② 図書館・生涯学習センター機能と新たな機能を融合した案は、機能的に近しいスペースを整理し、それぞれのスペースの融合化を図ることができます。
- ③ 各スペースを多目的に活用した案は、図書館スペース、生涯学習センタースペース、新たなスペースの融合度合いが更に高く、その後の建設工事費や維持管理費用は最小限に抑えることができます。

表 6-2 3 パターンのメリット・デメリット比較

パターン名	延床面積	建設費	維持費用	融合性*	座席数
①新たな機能を全て入れ込んだ案	7,500㎡	△	△	△	○
②図書館・生涯学習センター機能と新たな機能を融合した案	6,000㎡	○	○	○	○
③各スペースを多目的に活用した案	5,000㎡	◎	◎	○	△

※「融合性」とは、図書館・生涯学習センターの融合度合を指します。

6-2 各フロアにおける機能配置案の検討

6-2-1 各フロアにおける機能配置の考え方

各フロアの機能配置案を検討するに当たり、第2回市民ワークショップ等が出た意見を参考に、静のスペースと動のスペースを切り分けながらも、つながりのあるものとします。特にワークショップにおいては市民の活動的な場への要望が多く、従来の図書館らしいスペースと活動的なスペースをうまく融合し、かつ、生涯学習センタースペースも活用していく方向とします。

また今後、十分な駐車台数の確保やワークショップでも意見のあった屋外利用等も踏まえ、ワンフロアが1,000㎡～1,500㎡前後となるよう調整した場合、全体面積を最大でも7,500㎡以下とすると、4～5階程度のフロア構成になることが想定されます。

さらに、建設予定地は津波浸水想定区域(0.3m～2.0m)、洪水浸水想定区域(1.0m～5.0m)であるため、貴重な資料等を極力被害から避けるための方策が必要となります。そのことを踏まえると、1階部分には貴重な資料等は配置せず、交流機能のような動的な機能であることが望ましいと考えます。

そして2階以上については上階に上がるほど、静寂なフロアとするなどが考えられますが、どの階にどの機能を持たせるかについては今後も検討を深めていく必要があります。

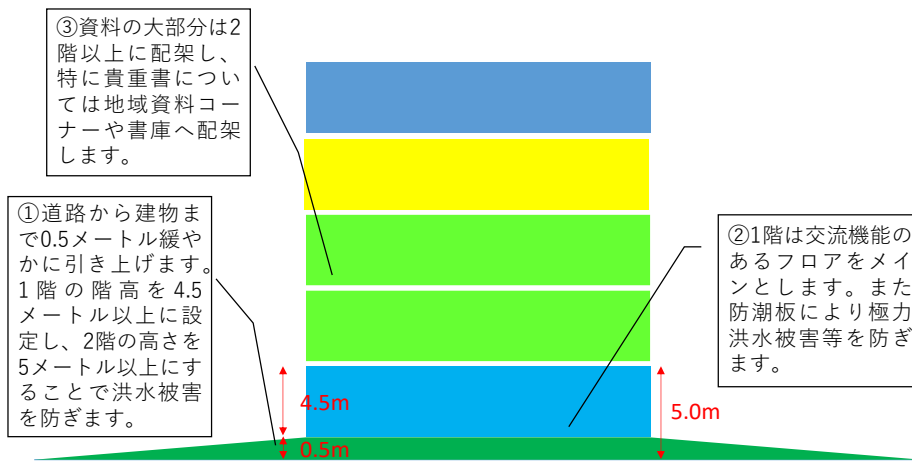


図 6-1 防災の観点からの方策(案)

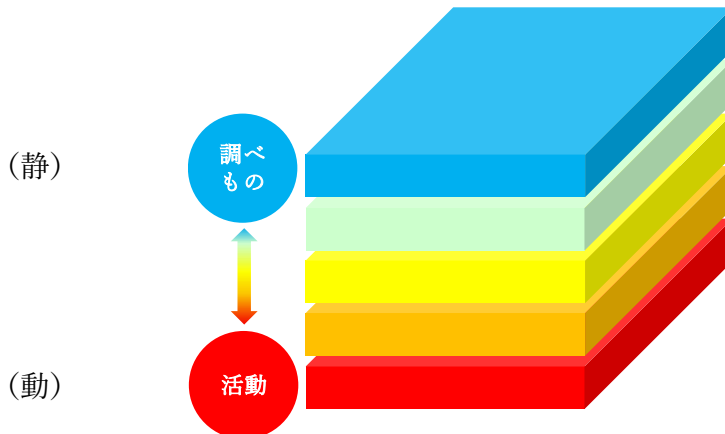


図 6-2 フロアごとのつながり(案)

6-2-2 各フロアにおける機能配置案

「5-1-1 これまでの意見と拡充が必要な機能・サービス」で分類した7つの機能について、「6-1-1 3パターンの面積表」の②図書館・生涯学習センター機能と新たな機能を融合した案 6,000 m²をベースとし、かつ、5階建てと想定して、スペースのつながりやサービス内容及びフロアごとの面積ボリュームを検討しながら、5つのフロア構成に切り分けました。下記にそのイメージ案を記載いたします。

▶ 交流機能、生涯学習センター機能を有するフロア（案）

交流機能、生涯学習センター機能を有するフロアでは、音楽スタジオや印刷等創作室、動画や画像の編集ソフト等が入ったPCのあるワーキングスペース等利用者が創作に自由に使うことのできるスペースと、各分野のスペシャリストと創作活動のできるワークショップスペースやラウンジスペース等利用者同士で自由に交流のできるスペースを設けます。

双方につながりを持ったゾーニングにすることで、互いの活動を活発化できるつくりを目指します。また、新聞・雑誌コーナーのほか、読書や作業のリフレッシュができるカフェや市民が作成した同人誌等を販売するショップ、イベント用の小ホール等を設けます。

さらに、音楽スタジオ付近には音楽関連本、ギャラリー付近にはアート、デザイン関連の本や絵本、創作室やワーキングスペース付近には創作関連本を置く等図書館機能との連続性を持たせ、各種創作コンクールの開催等利用者の創作・交流の活発化を図ります。

また、ICタグシステムにより、予約資料をセルフで受け取ることができる予約本コーナーを配置するほか、総合案内として入口付近にサービスカウンターやデジタルサイネージを設置し、利用者や観光客への情報発信を行います。

広場も設置することで、伊東市ならではの足湯や、屋外イベントの開催、スポーツができるスペースや、子どもたちが遊べるスペースなども設置し、気軽に足を延ばして来館できるような施設として、日ごろ図書館を利用しない方々に対し、図書館サービスを利用するきっかけを提供します。

移動図書館の駐車場・倉庫もこのフロアに配置します。また、洪水被害を防ぐ観点や広場とのつながりからこのフロアが1階に配置されると想定します。

表 6-3 設置を想定するスペース（案）

・ワークショップスペース（第2多目的室）	・音楽スタジオ	・[書架] 音楽関連本
・小ホール（映画館・プラネタリウム）	・カフェ・ショップ	・印刷等創作室
・PC創作ルーム	・ワーキングスペース	・[書架] 創作関連本
・[書架] アート・デザイン関連の一般書や絵本	・ギャラリー	・ラウンジスペース
・美術工芸室	・情報発信交流スペース	・予約本コーナー
・移動図書館車駐車場	・[書架] 新聞・雑誌コーナー	
・[屋外] テラス・足湯・スポーツ屋外施設		

① 新たな機能を全て入れ込んだ案の場合：上記に加え、小ホールとは別に同フロアに映画館、児童コーナーにプラネタリウムを設置します。

③ 各スペースを多目的に活用した案の場合：児童コーナーにあった児童遊具等を屋外に移設します。美術工芸室と印刷等創作室、PC創作ルームが統合されます。



図 6-3 カフェ・ショップ



図 6-4 広場を使ったイベント



図 6-5 ラウンジスペース



図 6-6 印刷等創作室

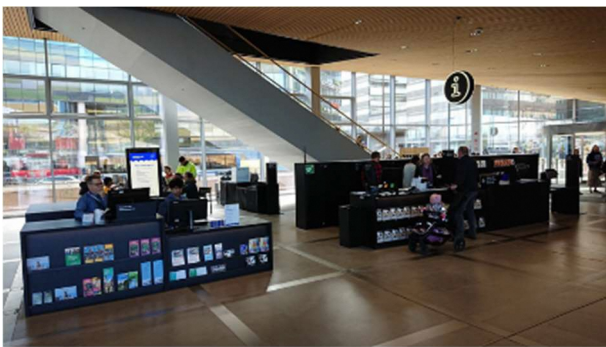


図 6-7 情報発信交流スペース



図 6-8 音楽スタジオ



図 6-9 雑誌コーナー

▶ ティーンズコーナー機能、生涯学習センター機能を有するフロア（案）

ティーンズコーナー機能を有するフロアとして、ティーン専用のエリアを設けます。そこでは、ティーン資料を配架し、閲覧室、グループ学習室、ボードゲーム等青少年の娯楽コーナーとなるプレイルームを周辺に設け、つながりを持たせます。書架については、アートなしつらえにするなど工夫されたものにします。また、同フロアに多目的室、和室、トレーニング室等生涯学習関連のスペースを設け、生涯学習センター機能を付与することで、大人も活動できる生涯学習センター機能を有するフロアにし、青少年から大人までが活発に活動できるフロアを目指します。

さらにティーンエイジ視聴覚資料コーナー、一般学習室も設けることで多様な要望に応えられるフロア構成を目指すほか、活発なボランティア活動を支援するため、ボランティア等関係団体用のロッカースペース等も設置します。

表 6-4 設置を想定するスペース（案）

・学習室	・ティーン閲覧	・[書架] ティーン資料
・プレイルーム	・グループ学習室	・視聴覚資料コーナー
・トレーニング室	・第1多目的室	・第3多目的室
・第4多目的室	・第1和室	

- ① 新たな機能を全て入れ込んだ案の場合：プレイルーム近くに体育館を配置し、つながりを持たせます。また、交流機能を有するフロアの印刷等創作室とは別に美術工芸室を設けます。



図 6-10 ティーン資料



図 6-11 グループ学習室



図 6-12 トレーニング室

▶ 児童コーナー機能を有するフロア（案）

児童コーナー機能を有するフロアでは、児童書コーナーや閲覧室、おはなし室といった従来の児童コーナーだけでなく、託児室や遊具等があるキッズスペース、児童視聴覚資料コーナーを設けることで更なる機能拡充を目指します。児童コーナーでは、子どもたちに図書館マナーを教えるオリエンテーリングも開催します。また、親も共に過ごせるフロアとして、子育てや料理等を扱った一般図書も近くに配架します。

表 6-5 設置を想定するスペース（案）

・キッズスペース	・児童閲覧室	・[書架] 児童書
・おはなし室	・児童視聴覚コーナー	・託児室
・[書架] 一般 子育て		

③ 各スペースを多目的に活用した案の場合：屋外にキッズスペースを設けます。



図 6-13 面白みのある児童開架スペース



図 6-14 おはなし室



図 6-15 託児室

▶ 伊東市情報センター機能を有するフロア（案）

伊東市情報センター機能を有するフロアでは、地域資料・参考資料を配架し、周辺に閲覧室やレファレンスカウンターを設けます。地域資料については、伊豆半島全体の郷土資料や伊東市を舞台にした作品等も収集、公開し、タブレットの貸出により電子書籍の閲覧ができるようにします。また、郷土に関する展示室を近くに設けることで、資料と展示の両側面からより深く伊東市について知ることができます。

その他、対面朗読室、バックスペースを設けます。

表 6-6 設置を想定するスペース（案）

・地域資料閲覧室	・レファレンスカウンター	・郷土資料展示コーナー
・対面朗読室	・[書架] 地域資料・参考資料	・バックスペース（事務室、書庫、備蓄庫）

① 新たな機能を全て入れ込んだ案の場合：郷土資料展示コーナーに隣接し、博物館スペースを配置します。



図 6-16 地域資料・参考資料スペース



図 6-17 地域資料閲覧室



図 6-18 郷土資料展示コーナー

▶ 一般コーナー機能を有するフロア（案）

一般コーナー機能を有するフロアでは、一般書を中心に配架し、利用者がくつろぐことができる、ゆとりのある閲覧席を設けます。また、配架の一部については利用者が普段出会わないような新たな本と出会えるしつらえにし、タブレットの貸出による電子書籍の閲覧ができるようにします。健康や心の悩みに関するコーナーを設け、相談カウンターも設置します。

また、図書を使って調べもの等ができるよう、学習室を同フロアに設けます。

表 6-7 設置を想定するスペース（案）

・一般閲覧室	・ [書架] 一般書	・ 学習室
--------	------------	-------



図 6-19 一般書開架スペース



図 6-20 一般書開架スペース

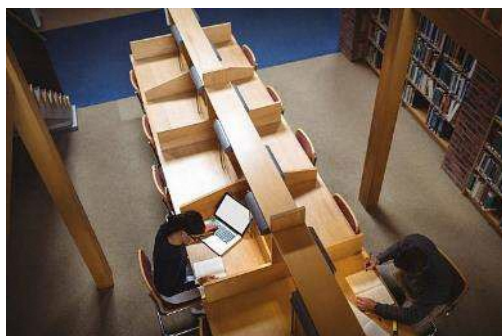


図 6-21 学習室



図 6-22 一般閲覧席

7 事業計画

7-1 施設整備費

7-1-1 概算工事費

これまで検討してきた3パターンの面積について超概算工事費を算出します。算出に当たっては近年建築された全国の10図書館の1㎡当たりの工事費の平均である、約500千円を参考値とします。

表 7-1 10 図書館の工事費比較

図書館工事費事例	開館年月	延床面積(㎡)	総工事費(千円)	工事費/㎡ (千円)
A図書館	平成20年1月	4,642	1,600,000	345
B図書館	平成22年7月	11,888	4,072,000	343
C図書館	平成23年7月	9,810	4,467,000	455
D図書館	平成27年7月	15,444	7,372,000	477
E図書館	平成27年8月	26,792	13,037,000	487
F図書館	平成28年11月	22,904	14,700,000	642
G図書館	平成29年3月	10,944	6,336,000	579
H図書館	平成29年11月	5,696	2,678,000	470
I図書館	平成30年5月	4,696	2,569,000	547
J図書館	平成30年11月	4,168	2,660,000	638
工事費/㎡平均				498

その結果、全体の面積として、①新たな機能を全て入れ込んだ案 7,500㎡ではおおよそ3,750,000千円、②図書館・生涯学習センター機能と新たな機能を融合した案 6,000㎡ではおおよそ3,000,000千円、③各スペースを多目的に活用した案 5,000㎡ではおおよそ2,500,000千円と算出されました。

今後、計画・設計策定の中でこの費用を目安としながら、検討を進めていきます。

表 7-2 3パターンの概算工事費比較

パターン名	延床面積	超概算工事費
①新たな機能を全て入れ込んだ案	7,500㎡	3,750,000千円
②図書館・生涯学習センター機能と新たな機能を融合した案	6,000㎡	3,000,000千円
③各スペースを多目的に活用した案	5,000㎡	2,500,000千円

資料

【基本構想策定委員会開催概要】

(1) 第1回策定委員会

日時：令和2年7月13日（月）15時00分～17時10分

会場：伊東市役所庁舎 低層棟3階 議会棟 第2委員会室

(2) 第2回策定委員会

日時：令和2年9月28日（月）15時00分～17時00分

会場：伊東市役所庁舎 低層棟3階 議会棟 第2委員会室

(3) 第3回策定委員会

日時：令和2年11月16日（月）12時30分～14時30分

会場：伊東市役所庁舎 低層棟3階 議会棟 第2委員会室

(4) 第4回策定委員会

日時：令和3年1月25日（月）15時00分～16時20分

会場：伊東市役所庁舎 高層棟8階 大会議室

【委員名簿】

	役 職	肩 書 き	氏 名	備 考
1	委員長	学識経験者	植松 貞夫	筑波大学名誉教授
2	副委員長	学識経験者	竹之内 禎	東海大学准教授
3	委員	伊東市社会教育委員長	大村 涛子	
4	委員	伊東市 P T A 連絡協議会代表	辻 恵	伊東市立門野中学校 P T A (母親代表)
5	委員	元伊東市成人式実行委員	溝 口 玄	
6	委員	伊東市校長会代表	齋藤 秀輝	伊東市立門野中学校 校長
7	委員	伊東市立保育園代表	上村真理子	伊東市立広野保育園 園長
8	委員	伊東市立幼稚園代表	池田千栄子	伊東市立池幼稚園 園長
9	委員	図書館に造詣の深い者	石川 弘夫	伊東図書館お話し会代表
10	委員	図書館に造詣の深い者	齋藤 克子	元伊東市社会教育指導員

伊東市新図書館基本構想

発行 令和 3 年 3 月

編集 伊東市教育委員会生涯学習課

〒414-8555 静岡県伊東市大原二丁目 1 番 1 号

T E L 0557-32-1961

F A X 0557-37-8117

メール gakusyuu@city.ito.shizuoka.jp

U R L <http://www.city.ito.shizuoka.jp/>